

郷土教育推進研究報告書

令和6年度（2024年度）

「郷土日野」指導事例

～ 第19集 ～



日野市立教育センター

郷土教育推進研究委員会

～ ご あ い さ つ ～

第19集の発刊にあたって

日野市立教育センター所長 竹山 弘志

令和6年3月に第4次日野市学校教育基本構想が示され、子供たち自らが育ててほしい力として「すべての“いのち”がよろこびあふれる今と未来をつくっていく力」が掲げられました。そこには、日野の学校は誰かが育ててくれるものではなく、みんなが当事者として力を出し合って育てていくことが大切であり、関係者の「プロジェクト」がカギになると述べられています。本教育センターの郷土教育推進研究事業は、そのカギの一つとして、子供たちをよりよく成長させるための学校教育を支える役割を担ったプロジェクトだと思えます。

この4次構想の「地域共創プロジェクト」には、「日野ならではの、ホンモノ体験・感動を共に作り、味わう」ことが示されています。郷土教育推進研究事業が、子供たち一人一人が地域を学びのステージとすることで地域と深く関わり、地域に溶け込み、地域の人々と共生していく大切な存在であるということ意識し、地域への愛着をさらに深めるための一助になればいいと思います。さて、本年度は研究主題を「郷土への愛着を高め、地域と共に生きようとするひのっ子の育成」とし、研究活動を計画通り実施することができました。そして、本年度の研究活動の成果の一つとして『「郷土日野」指導事例～第19集～』にまとめて発行することができました。各校では、総合的な学習の時間等において「郷土日野指導事例」の検索システムを活用して、子供たちの探究的な学習等に生かしていただければ幸いです。

結びに、第19集の発行にあたり、ご尽力いただきました郷土教育推進研究委員会の皆様、ご協力いただきました地域の皆様、関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

地域を見つめなおし、地域を知り、地域を教材に授業をつくる

郷土教育推進研究委員会委員長
日野市立東光寺小学校 校長
齊藤 境 栄

日野の良さ、地域の良さを知り、郷土の魅力を発見し、発信する児童の育成を目指し、郷土教育推進研究委員会の研究を進めて参りました。

4つのグループそれぞれで研究授業を実施しました。日野市産の農産物が給食で使用されていることをきっかけとして自分たちでできることを考え実践する、学校周辺の伝統文化を理解しよさを知る、児童の「やりたい」ことを地域で体験する活動を通して地域の良さを知り発信する、日野にゆかりのある詩人巽聖歌の詩を鑑賞して郷土を大切にしている心情を考える、授業者それぞれが勤務校の地域を分析し、グループのメンバーとともに授業をつくり、教材を工夫し、授業に臨みました。これまで蓄積された過去の事例集に掲載されている貴重な指導事例を参考、活用した研究授業も実施できました。

ご指導いただきました顧問の皆様方をはじめ委員の選出をいただいた各学校、ふるさと文化財課、中央公民館、図書館の皆様方に感謝申し上げます。

児童の生活圏、勤務校の周辺、日野市全体の自然、文化、歴史、建築物、遺跡…に関心を持ち、それらを知ることによって授業を構想し、準備し、実践することが郷土教育を推進するうえで大切であることを学ぶことができたように思います。今後のますますの研究の深まりと先生方、子供たちの学びが深まることを期待しています。

～郷土教育推進研究～

I 研究の構想

1 研究の主題 「郷土への愛着を高め、地域と共に生きようとするひのっ子の育成」

第4次日野市学校教育基本構想（2024年度）には、「すべてのいのちがよこびあふれる今と未来を創っていく力」として子供たち自らが育んでいってほしい力が示されています。3つの基本方針のうち、地域との関わりで「社会と未来に開き、みんなでつくる」が示されています。地域を舞台として関わりの中で体験し学ぶ中で、ホンモノ・舞台、多様な参画、対話・協働と子供と大人の10+の姿で共有したい具体的な活動として「地域共創プロジェクト」が示され、郷土教育に深く関わる項目や、教育活動を進めていく上で大事にすべき事柄が示されています。

この第4次学校教育基本構想に基づき、郷土教育とは郷土を深く理解し、郷土の魅力、郷土の課題を見つけることで、子供なりの視点でふるさと日野を誇りに思い、良くしていきたいという願いをもって郷土で活躍する子供を育む教育としました。地域の今から、未来の担い手として、地域社会に参画する子供を育む教育を推進することは、第4次学校教育基本構想の「社会と未来に開き、みんなでつくる」につながります。

そこで、郷土教育推進研究委員会（以下、委員会）では、研究主題を「郷土への愛着を高め、地域と共に生きようとするひのっ子の育成」として、郷土教育の進め方を創意工夫し、郷土教育を通して第4次日野市学校教育基本構想に迫ろうと考えました。

2 研究主題に迫る授業像

委員会では、研究主題の内容を皆が共通理解して研究を進めることが大事であると考え、研究主題に迫る授業像を下表のように明らかにし、共有しました。

	郷土への愛着を高める児童	→	地域と共に生きようとする児童
授業で獲得が期待されること	<ul style="list-style-type: none"> ・ 郷土の人・こと・ものを知る。 ・ 郷土を身近に感じる。 ・ 郷土の良さや素晴らしさに感動する。 ・ 郷土を誇りに思う。 ・ 郷土の大切さ、かけがえのなさを感じる。 ・ 郷土の人々とつながる。 ・ 郷土に生まれ、郷土の一員である自分を自覚する。 <p>※「愛着」・・・心がひかれて、大切にしたいという思い</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・ 郷土を大切にしようと感じる。 ・ 郷土の営みに協力しようと思う。 ・ 郷土に貢献しようと思う。 ・ 郷土を元気にしよう考える。 ・ 郷土を発展させよう考える。 ・ 郷土に生まれ、そこで生活している自他を大切にしよう考える。 ・ 自己の郷土への思いを発信し、郷土を愛する仲間を増やそう考える。 ・ 郷土で培われた自己の個性を生かし、将来他地域や外国においても自己の務めを果たすことができる資質を育む。
育みたい学習態度	<p>～主体的・対話的で深い学び～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自ら課題、自ら解決…探究的に学習する。 ・ 人と関わることによって、考えを深めたり、新たな情報を得たり、協力・分担して研究したりする。 ・ ものごとを自分との関りでとらえる。 ・ 学んだことを通して自己の生き方を考える。 ・ 学んだことを発信する。 		

II 研究組織

役員会	教育センター所長	竹山 弘志	
	委員長	齊藤 境栄	(東光寺小学校長)
	副委員長	秋田 克己	(日野第三小学校副校長 Dグループ)
	指導主事	齋藤 直大	(日野市教育委員会教育指導課)
	郷土教育コーディネーター	高橋 清吾	(教育センター)
	郷土教育担当	尾形 斉	(教育センター)
Aグループ	世話人	永吉 智洋	(豊田小学校)
		川口 翼	(日野第三小学校)
		明吉 貴子	(日野第五小学校)
		高橋 優太	(日野第六小学校)
		浅野 佑弥	(旭が丘小学校)
		大塚 美紀	(ふるさと文化財課)
	顧問	小杉 博司	(元日野第一小学校長)
Bグループ	世話人	白石 誠	(日野第一小学校)
		夏苅 桃佳	(平山小学校)
		富田 有作	(滝合小学校)
		寶田 亮	(南平小学校)
		白川 未来	(ふるさと文化財課)
	顧問	吉野美智子	(元百草台小学校長)
Cグループ	世話人	廣岡 憧真	(日野第四小学校)
		西川 愛	(潤徳小学校)
		船引 颯太	(日野第八小学校)
		荒井 椋平	(七生緑小学校)
		井上 晴香	(第四幼稚園)
		高橋 寿恵	(図書館市政図書室)
	顧問	倉田 満	(元渋谷区立常磐松小学校長)
Dグループ	世話人	山浦 真義	(日野第七小学校)
		小澤 正史	(東光寺小学校)
		柿崎麻理子	(仲田小学校)
		鈴木 規愛	(夢が丘小学校)
		渡部 康弘	(中央公民館高幡台分室)
	顧問	川島 清美	(日野第三中学校長)

III 研究経過

月・日・曜	活動内容	月・日・曜	活動内容
5・17・金	委嘱状及び辞令伝達、顔合わせ	10・22・火	A・Bグループ研究授業
6・25・火	グループ研究	11・19・火	C・Dグループ研究授業
7・23・火	夏季研修、二かみルナ等フィールドワーク	12月	研究のまとめ、成果と課題等作成
8・22・木	グループ研究、指導案検討	1・28・火	郷土教育研究発表会
9・26・木	グループ研究、指導案検討	2・10・月	教育センター研究発表会

IV 実践事例

1 Aグループの研究

令和6年度
Aグループ
郷土のことを学び、魅力を伝える
ひのっ子の育成

世話人	永吉 智洋	(豊田小学校)
	川口 賢	(日野第三小学校)
	明吉 貴子	(日野第五小学校)
	高橋 優太	(日野第六小学校)
	浅野 佑弥	(旭が丘小学校)
	大塚 美紀	(ふるさと文化財課)
顧問	小杉 博司	(元日野第一小学校長)

Aグループ 研究テーマ設定の理由

学校(校区)の良さ(魅力)って何だろう??

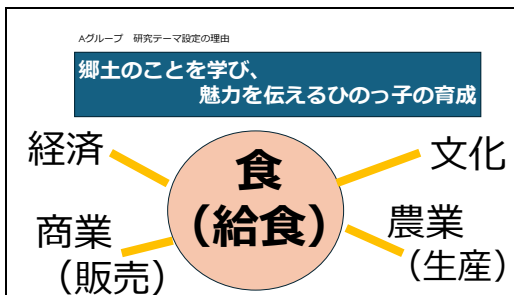
↓

雑木林(旭が丘) イオンモール(五小)
自然(豊田) 日野自動車(三小)
他にも...歴史(高幡不動)、交通(モノレール)

↓

児童と日野(学校)を繋ぐ共通項は何だろう

**児童が給食を食べ、食を通して
日野市で暮らしている**



【実践①Aグループ研究授業】
3年 総合的な学習の時間
「見たい!知りたいたい!やってみよう!!」 目指せ まちマスター
日野第五小学校 指導者 明吉 貴子

視点: 日野市の施設や地域について調べたり、実際に体験したりする活動を通して、自分たちの地域のよさや地域の人々の思いに気付く、地域との関わりの中で自分にできそうなことを考え、積極的に関わろうとする態度を育てる。

豆腐作り体験

栄養士にインタビュー

【振り返りより】

- 日野市の食べ物の魅力を伝えるためにできることをしたい。
- 地域が消失から安心できるし、新鮮な野菜が食べられる。
- 日野市の食べ物が使われているから、残さず食べるようにする。

【成果】

- 栄養士や農家、豆腐店の方に話を聞く活動を取り入れたことで、日野市の歴史や文化に対する関心が高まりました。「自分ができることをしよう」という児童の意識につながりました。

【課題】

- 学区内に畑や田んぼが少なく、体験活動を行うことが難しくなりました。そのため、児童が「本物」と出会う機会をどのように考えるかを考えなければならぬと感じました。


Aグループでは、まず学校の良さについて話し合いました。そこから、「自然が多い、イオンがあり便利、日野自動車の本社がある」などという魅力が日野市にはあることを確認しました。しかし、Aグループとしての共通項がないことに気がきました。

そこで児童と日野市を繋ぐ良さはないだろうかと考えました。そこから導きだされた答えは、「食」でした。児童が給食を食べ日野市で生活をしているということでした。

そうして、「郷土のことを学び、魅力を伝えるひのっ子の育成」として、食をテーマに研究を深めることにしました。

そこで、「郷土のことを学び、魅力を伝えるひのっ子の育成」として、食をテーマに研究を深めることにしました。「食」を軸に考えると、「どこでとれた野菜だろう」「作られた作物はどこに運ばれるのだろう」といった経済の視点。「食を支える私たちの地域と人々の思い」という文化の視点。「どこでどのような作物を育てているんだろう」という農業の視点。「この畑でとれた野菜はどこで売られているのだろう」という商業の視点。軸を決めることで、私たちの研究の方向性が広がりました。次に、Aグループでの推進委員の授業実践を紹介します。研究テーマにのっとり、各々が郷土の魅力を発見したり伝えたりできる授業を作成し、実施しました。これから各々の実践について紹介します。日野第五小学校3年生の研究授業では、日野市の食べ物に焦点を当て、自分たちが住むまちのよさについて学習しました。導入で「東京産農産物の学校給食活用促進事業PR動画」を見て日野市が数ある自治体の中でなぜ選ばれたのかを考えました。その後栄養士や本校に野菜を納入している農家の方、豆腐作り体験等を通して、「給食に使われてる野菜を作っている畑の看板があったよ」「日野市の野菜の魅力を伝えたい」という児童の言葉から、郷土を愛する気持ちが育てられたことを感じました。一方、学区内に農産物を作っている畑が少なく、畑を見たり収穫したりといった、農産物を作る苦労を実際に体験する「本物」に触れる機会をどのように作っていかなければならないかと考えました。

【実践②】
5年 社会
「未来を支える食料生産」
日野第六小学校 指導者 高橋 優太
視点 日本の国内食料生産と日野の食料生産を比較しながら



班でまとめている様子 調べている様子

【振り返りより】
・農家が減ってきていることから野菜がどんどん高くなってしまっているのではないかと感じた。

○成果
・日本の農業生産の様子について学ぶことができた。
・給食で食べている日野の野菜に気付き、様々な野菜や果物を生産していることに気付いた。

○課題
・ゲストティーチャーを呼び、さらに身近に感じさせたい。
・これから自分たちでできることを考え、まとめる時間を確保できたらより深い学習に繋がったと考えられた。

日野第六小学校の5年生では、社会科「未来を支える食料生産」を学習しました。学習の中で、日野市では野菜が多く作られていることを理解しました。児童の学習をより深めていくために、農家さんや給食の野菜を提供して下さる方に来てもらい、話を聞く機会を検討していきます。

【実践③】
5年 社会
「未来を支える食料生産」
豊田小学校 指導者 永吉智洋
視点 日本の国内食料生産と日野の食料生産を比較しながら

	日野市	日本
米作り	今ではほとんど行われていない ※かつては多量の米産	新潟県 日本の穀食地帯
果物	ブルーベリー なし	山梨県（もも、ぶどう） 福島県（もも） 青森県（りんご）

【振り返りより】
・日野市ではほとんどなくさんの種類の野菜や果物を作っていることがわかった。
・日野市でも農家が減少しているのと知って、日野産野菜がなくなるのは、悲しいから、残していきたいと思った。

○成果
・段取り事項を生かして日本の農業生産の様子について学ぶことができた。
・給食を通して食べている日野産野菜を残していきたいと考えることができた。

○課題
・ゲストティーチャーを呼び、さらに身近に感じさせたい。
・また、伝えることにつなげられてないので今後調べたことを伝える機会を設けたい。

豊田小学校の5年生では、総合の米作りとともに、社会農業の単元で日野市の食について学習しました。日野市では、野菜が多く作られていることを理解しました。「たしかにブルーベリー作っているところ見た。」と普段見ている景色とつなげて考えることができていました。今回は、資料やインターネットで調べましたが、実際の農家さんに来てもらい、話を聞く方がより身近に感じられるので、今後の学習で検討していきたいと考えています。

【実践④】
4年 道徳「故郷の詩～巽聖歌～」(内容項目C 郷土を愛する態度)
旭が丘小学校 指導者 浅野 佑弥
視点 巽聖歌の故郷への愛を想像し、故郷を愛する気持ちを考える。

<授業の流れ>
○巽聖歌について知る
○教材「故郷の詩～巽聖歌～」を読む
○巽聖歌の詩を紹介する
(母はとつとど、水口など)
○巽聖歌にとって、故郷とは？(ワークシート)
○日野市のよさは？(ワークシート)

○成果
・巽聖歌と自分たちの町のつながりを改めて理解することができた。
・日野市のよさについて、自分ごととして考えることができた。

○課題
・巽聖歌の資料不足
・この教材を取り扱う
・学年の検討

<児童のワークシートより>
・日野市には川や山、畑など自然が豊か。
・自然豊かな日野市をこれからも守ってきたい。
・自分たちのまちのよさをいろいろな人に知ってほしい。

旭が丘小学校の4年生では、同校の教員が以前作成した「故郷の詩～巽聖歌～」という教材を使って郷土を愛する態度について考えました。導入で日野駅の発着メロディーや旭が丘中央公園の歌碑、12月に行われたたきび祭を取り上げたことで、児童の興味関心を高めて授業に入ることができました。聖歌の詩を通し、畑の様子など日野の自然の豊かさに気付くことができました。児童の振り返りには、住んでいる町を誇りに思う気持ちがたくさん書いてありました。成果を感じた反面、これだけ巽聖歌ゆかりのまちにある本校ですが、図書室には巽聖歌の詩集や資料が1冊もなかったため、資料の充実を図る必要があると考えました。

【実践⑤】
3年 総合的な学習の時間
『「ナン博士になろう」「東光寺大根博士になろう」』
日野第三小学校 指導者 川口 翼
視点 日野市で育てられているナンや東光寺大根を知り、地産地消の意識を高める。



ナン農家の方のお話を聞いている様子 大根の種まきの様子

○成果
・実際に日野市の食材を育てている農家の方のお話を聞いたり、農作業を体験したりしたことで、食を大切にすることができた。
・給食の献立に使われている、食材に興味が高まった。

○課題
・天候や時間調整、作物の育ち具合によって活動が制限されることがある。
・農家の方から聞いたことや自分たちで調べたことを発表する機会をもたせたい。

日野第三小学校の3年生では、総合的な学習の時間で、日野市の農家の方の畑やナシ園に行きました。実際に、自分たちが給食で食べたことがある食材について、どのような場所で、農家の方がどのような思いで育てているのかお話を聞いたり、農作業を体験したりすることを通して、食の大切さを学ぶことができました。

成果と課題

成果	課題
<ul style="list-style-type: none">・食への興味・関心の高まり・「自分にできることをしたい」・「自分ごと」としての学び	<ul style="list-style-type: none">・ゲストティーチャー等の調整・環境とカリキュラム・受信から発信へ

最後に成果と課題です。

成果は、

食という身近なテーマから迫ったことで、児童の郷土に対する興味・関心が高まったのはもちろん、「自分たちにも何かできることがあるのではないか」という当事者意識の芽生えを感じることができました。

課題としては、

ゲストティーチャーや体験・見学場所、資料の確保です。ゲストティーチャーを確保でき実践できた事例もありましたが、調整が難航し見送った実践もありました。また、校区の環境により、各校共通した活動が難しいことや、学年やカリキュラムと「郷土」をどう結びつけるか、推進委員としての悩みどころでした。人材・協力先リストなどを共有できるように、今年度の人脈を引き継いでいこうと思います。

ゲストティーチャー等からの学びが多かった分、それらを何らかの形で校内や地域に発信できるとさらに大きな成果に結び付けられるのではとの意見も挙がりました。

総合的な学習の時間 学習指導案

日 時 令和6年10月22日(火)
 第5校時 13:40~14:25
 学校名 日野市立日野第五小学校
 対 象 第3学年5組 32名
 会 場 3年5組教室
 授業者 教諭 明吉 貴子

1 単元名 「見たい！知りたい！やってみたい！！ 目指せ まちマスター」 (全 70 時間)

2 単元の目標と評価規準

単元の目標

日野市の施設や地域について調べたり、実際に体験したりする活動を通して、自分たちの地域のよさや地域の人々の思いに気づき、地域との関わりの中で自分にできそうなことを考え、積極的に関わろうとする態度を育てる。

3 単元の評価規準

観点	ア知識・技能	イ思考・判断・表現	ウ主体的に学習に取り組む態度
評価規準	①地域の伝統や文化のもつ特徴や、農業、身近な自然などを知り、その日野市の特色（独自性）やそれに携わる地域の人々の思いを理解する。（知識） ②調査活動や地域の探索活動を、相手や目的に応じてアンケート調査やフリップボード調査、インターネットなどの中から適切な方法を選んで調べたり、必要な情報を整理・工夫してまとめたりすることができる。（技能） ③地域の施設や食べ物、地域の人々の思いを理解したことは探究的に学習したことの成果であることに気付いている。（探究的な学習の理解）	① 日野市のよさや特色について知る中で、学習課題を発見し、設定している。（課題の設定） ② 日野市のよさや特色を知るために、必要な情報をインターネットや本などで調査する以外にも、自身が直接体験したり、インタビューやアンケート調査をしたりすることで得られた一次情報を集め、種類に合わせて蓄積することができる。（情報の収集） ③ 課題解決に必要な情報を取捨選択、比較、関連付けることで、解決に向けて考えている。（整理・分析） ④自分の考えを、相手や目的に応じて分かりやすくまとめ、表現している。（まとめ・表現）	①市内巡りや調査といった体験や出会いを通して、自分たちの住む日野市への関心をもち、自ら学習課題を発見し、解決しようと探究活動にすすんで取り組もうとしている。（自己理解・他者理解） ②自他のよさを生かしながら友達と協力して進んで問題解決に取り組んでいる。（主体性・協同性） ③調査を通して、地域の一員としての自覚をもち、自分たちにできることを見付けようとしている。（将来の展望・社会参画）

4 児童の実態

本学級の児童は、総合的な学習の時間には、自分たちの住む地域や日野市の魅力を見付けるためにフィールドワークや社会科見学の一環として市内巡りを行い、魅力を話し合った。その中でも食については多くの児童が身近なものとして関心を示した。社会科の「市の様子」で日野市の土地の使われ方、「店で働く人と仕事」でスーパーマーケットの学習をしている。「店で働く人と仕事」では、スーパーマーケットの見学で店内の野菜コーナーにあった「地産地消」という看板に多くの児童が興味をもち、「地域で採れた農産物をできるだけ地域で消費する」取り組みであることを学んだ。

また、酪農の仕事についてゲストティーチャーから話を聞く中で食への関心が高くなっている。しかし、給食を楽しみにしている児童も多い一方で、毎日の給食が日野市産の野菜だと分かっ
てはいても自ら進んで食べることができない児童もいる。

そのため、栄養士や農家の方、豆腐作り体験など、自分たちの食生活に携わる郷土の人々の関わりを通して、自分にできることを主体的に考え、実践できる児童を育てたい。

5 単元について

日野市は自校方式の給食が基本となっており、地産地消の取り組みが「東京産農産物の学校給食活用促進事業のPR動画」にも取り上げられた。そこで東京都の数ある自治体の中で日野市の給食が取り上げられた理由を考えたり、調べたりする中で、自分たちが住む日野市の農産物や取り組みのよさに気付かせたい。また、『第4次日野市学校教育基本構想 8+プロジェクト』の1つである「地域共創」として、農家の方に話を聞いたり、豆腐作り体験をしたりすることで地域にあるホンモノと関わり、学ぶ機会となるように設定した。そして「地産地消」を大事にすることでどんなよいことがあるかを栄養士や農家の方々の話から気付き、これからも郷土の食を持続させていくために、自分ができること（残さず食べる、日野市産の野菜を買うように家の人に説明する等）を考えて実践することを通して、児童に自己有用感をもたせることができると考えた。

(2) 実社会や実生活の中から問いを見出し、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。

6 指導について

本単元では、①「教科横断的な学び」②「協働的な学習」③「郷土教育」の3つの視点で指導を工夫していく。

①教科横断的な指導

国語科の「書くことを考えるときは」で、読み手を意識した分かりやすい文章の書き方について学んだ。この学習を生かして「魅力を伝えるひのっ子」の育成のために、自分たちが調べたことや感じたことを周りの人へ伝わるように表現することができるようにする。

②協働的な学習

本単元では、魅力を伝える（語れる）ひのっ子の育成のために、調べたり、話を聞いたりしたことを元に、日野の魅力を伝える表現活動を行う。他者の意見を聞き、異なる視点から考えたり、意見を交流させたりする活動を通じて、他者と協力して取り組む力を育てたい。

③郷土教育推進委員会の研究テーマに迫るための手立て

本単元は「郷土への愛着を高め、地域とともに生きようとするひのっ子」を育成するという研究テーマに対して、日野市内の学校が取り組める内容として、まず給食に注目させる計画を立てた。日野市の自校給食で使われる地場産野菜等の農産物に興味を持たせるために、「東京産農産物の学校給食活用促進事業のPR動画」を活用した。

7 単元計画と評価計画（全 70 時間）

	学習活動 【課】：課題設定【情】：情報収集【整】：整理・分析【ま】：まとめ・表現	評価規準 (評価方法)
小単元1 「地域のよさを発見し隊！！」19時間		
第1時	【課】2年生までの学習を振り返り、総合的な学習の時間についてイメージを膨らませる。	イー①（発言、ワークシート）
第2時	【課】自分たちの身近なことや地域について知っていることを共有する。	イー①（ワークシート）
第3時	【課】身近なことや地域のことについて、さらに知りたいことを考える。	イー①（振り返り記述）
第4～6時	【情】日野市について、市のホームページやパンフレット、市報などの資料から地域の施設や特徴について調査する。	イー②（ワークシート、振り返り記述）
第7～10時	【情】市内巡りを通して、高幡不動尊、多摩動物公園、百草ファームといった施設に実際に訪れ、調査したり、地域で働く人から話を聞いたりする。	イー③（行動観察）
第11～17時	【整】調査した内容を整理する。	
第18～19時	【ま】日野市の施設について分かったこと、発見したことを、目的に応じてまとめ、共有する。	イー③（行動観察） アー②（ワークシート） イー④（振り返り記述）
小単元2 「作って食べ隊！！」21時間		
第20時	【課】「東京産農産物の学校給食活用促進事業PR動画」を見て、なぜ日野市が取り上げられたのか疑問をもつ。	イー①（行動観察、振り返り記述）
第21時	【課】日野市で作られている農産物について知っていることを共有する。（トマト、大根、ブルーベリー、豆腐 など）	イー②（行動観察）
第22～23時	【課】農産物が自分たちのもとに届き、食べられるようになるまでにどのような過程があり、どんな人が関わっているか考える。	アー②（ワークシート、発言） ウー①（行動観察）
第24～28時	【情】【整】豆腐屋さんや農家の方、栄養士からのお話や資料、インターネットで調査し、情報を整理する。（代表児童が電話でアポをとる）	イー②（ワークシート・行動観察） ウー②（ワークシート・行動観察）
第29～33時	【情】【整】日野の農産物をおいしく食べるために、どのような食べ方があるのか情報を集めたり、整理したりしながら食べ方を決めて実践する。	ウー③（ワークシート・行動観察） アー①（ワークシート・行動観察）
第34～36時	【整】体験したことや調べて分かった情報を整理・分析する。	アー③（ワークシート・行動観察）
第37～40時	【ま】体験したことや調べて分かったことを報告し合い、まとめる。	イー③（振り返り記述）
	【課】次に何をしたいか考える。	ウー②（ワークシート・行動観察） アー②（ワークシート） イー④（成果物分析、振り返り記述） ウー①（発言）

小単元3 「もっと知り隊！伝え隊！」30時間		
第41時	【課】小単元1、2を通して知った地域について、よさや課題に目を向け、自分たちがやりたいことを考える。	ウー①(ワークシート)
第42～43時	【課】やりたいことを実践するための学習計画や活動計画を立てる。	ウー②(行動観察) イー①(行動観察)
第44～55時	【情】【整】実践活動をする。先輩の日野市マスターである4～6年生に見てもらう。・発表会・配布・展示会・集会活動など	イー④(発表)
第56～61時	【整】【ま】ゆりの木タイムで学んだことの報告会の準備をする。	イー③④(成果物分析)
第62～67時	【ま】ゆりの木タイムで学んだことの報告会をする。	イー④(発表)
第68時～70時	【ま】地域との関わりの中で自分にできそうなことについて考え、作文に書く。	イー④(発表) ウー③(作文、発表)

8 本時（全70時間中の第25時）

(1) 本時の目標 日野市の農産物のために自分にできることを考え、実践することを決める。

(2) 本時の展開

	○学習活動 T 教師の発言・児童の反応	指導上の留意点 配慮事項	評価規準 (評価方法)
導入 7分	<p>○前回の栄養士へのインタビューで分かったことを振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どんな野菜が使われているか。 ・日野市の農家さんが仕入れてくれていること。 ・給食の残りが多いことに悩んでいる。 ・日野市産の食べ物のおいしさをみんなに知ってほしいって言ってた。 <p>○今日のめあてを立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日野市産の食べ物のために何ができるかな。・できること考えよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りや写真を提示し、前時までの活動を想起させる。 ・今日の活動のめあてをクラス全員で確認する。 	
<p>本時のめあて：日野市の農産物のためにできることを考え、何をするか決めよう。</p>			
展開 30分	<p>○できることを考える。（全体）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食べ残しを減らす。 ・家の人に日野市産の野菜のよさを紹介して使ってもらおう。 ・日野市産の野菜のよさを周りの人に伝える。 <p>○「自分でやってみたいこと」「たれかとやってみたいこと」「そう考えた理由」を考える。（個人）</p> <p>○考えを友達と考えを交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①いつも野菜を残しちゃうから、少しでも食べるようにする。 ②おいしく食べるレシピを調べてやってみる。 ③農家さんにインタビューしておいしく食べるコツを教えてください。 ④お家の人に日野市産の食べ物を使ってもらえるように、よさをアピールする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「自分にできること」「だれかと協力するとできること」があることに気付かせる。 ・「自分にできること」と「だれかと協力するとできること」を分けて板書する。 ・「自分でやってみたいこと」と「誰かとやってみたいこと」「そう考えた理由」を整理しやすいようにする。 ・伝えたい人と聞きたい人を赤白帽子で分け、交流を視覚的に促す。 ・友達の考えで自分に取り入れたいものをメモできるワークシートにする。 	

	○学習活動 T 教師の発言・児童の反応	指導上の留意点 配慮事項	評価規準 (評価方法)
展開 30分	○全体で共有する。		イー②(ワークシート・行動観察)
まとめ 8分	○今日の学習を振り返る。 ・農産物のために実践するものを決める。 ○次時への見通しをもつ。	・「自分ができること」と「だれかと協力すればできること」に分けて考えられるようなワークシートにする。	

9 板書計画

<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> ㊦ 日野の農産物のためにできることを考えよう。 </div>		
前時までの振り返り	㊦ 自分にできること	㊦ だれかとできること

2 Bグループの研究

令和6年度
Bグループ

郷土の良さを知り、それを育む郷土の営みに
協力しようとする児童の育成

世話人 白石 誠 (日野第一小学校)
夏刈 桃佳 (平山小学校)
富田 有作 (滝合小学校)
實田 亮 (南平小学校)
白川 未来 (ふるさと文化財課)
顧問 吉野美智子 (元百草台小学校長)

Bグループ 研究テーマ設定の理由

郷土の良さを知り、それを育む郷土の営みに
協力しようとする児童の育成

↑

- それを伝えようとする人々の営みがある。自分たちにもできることはあるか。
- 「知らなかったけど、日野市には誇れるものがたくさんある！！
(ゴミの排出が少ない！ゴミ削減の取組・今も残る職種「ひらやまおかほ」
現在の図書館のシステムを作った日野市 など)
- 自然が多い
- 歴史的な人物が関わっている。(興業歌、新選組など)

↑

日野市の魅力とは？

Bグループ 研究テーマ

郷土の良さを知り、それを育む郷土の営みに
協力しようとする児童の育成

↓

- 各々が授業を一つ行う。
- 郷土の魅力について発見したり、自分たちにできることを考えたりする授業を展開する。

以上のことを各教員が実践した。

【実践①Bグループ研究授業】

5年生 総合的な学習の時間 「つながる！つなげる！日本の伝統文化！！」
滝合小学校 富田 有作

日本には、その地域の人が受け継いできた様々な伝統文化があることを知る。

課題追究するための、思考ツールの活用方法を学ぶ。

音速、取組の体験学習をし、思考ツールを活用しながら、課題をより深く学ぶ。

平山地区滝合小学校界隈については、どうだろうか。

始めは、伝統文化が味わえるようなものは、「無い」と思っていたけれど、意外とあることがわかり、「もっと詳しく調べてみよう。」という課題を設定した。

滝合小の界隈にも、意外と歴史や伝統を感じることができる場所があるよ！

自分の考えを、整理しやすい。調べたいのは、これだ！

もっと詳しく知るためには？

成果 (○) と課題 (△)

○思考ツールを活用し、自分の考えを、視覚的に整理する方法を体得することによって、児童が課題追究をする見通しを立てやすくなり、意欲的に学習に取り組むことができた。

○資料集めをする際には、インターネットからの情報だけでなく、現地に行き自分で見て確かめたり、地域の関係者にインタビューする方法があることに気付くことができた。

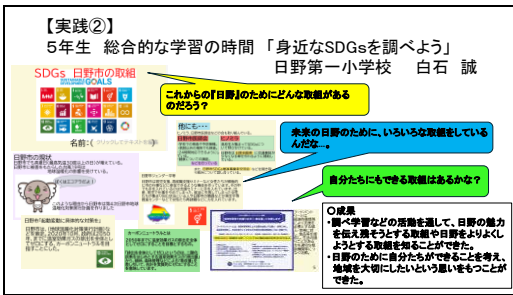
△地域の伝統文化は、史跡など実際に見る物だけではなく、「今日まで守られている浅川の自然」など、滝合小界隈の地域の特色を考慮に入れた課題作りも必要であった。

Bグループでは、まず日野市の魅力とは何かを話し合いました。調べてみると、日野市には、大人でも知らない歴史や隠れた良さが多くあることに気がきました。そこで、児童にも日野市には、誇れるものがたくさんあると感じてもらい、その良さを伝え、残そうとしている人々の営みに、自分たちにもできることがないかを考えられるようになってもらいたいと思い、「郷土の良さを知り、それを育む郷土の営みに協力しようとする児童の育成」というテーマを設定しました。

研究テーマにのっとり、各々が郷土の魅力を発見したり伝えたりできる授業を作成し、実施しました。これから各々の実践について紹介します。

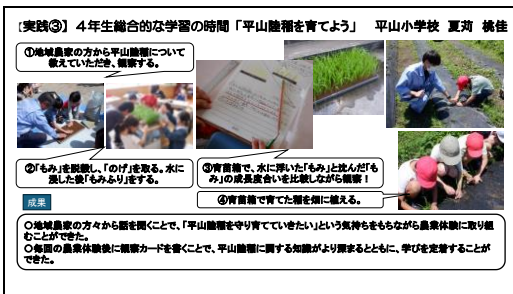
滝合小学校の5年生研究授業では、総合的な学習の時間で、『日本の伝統文化』について学んでいます。日本の伝統文化を学ぶ中で、日本の伝統文化は、各地にあり、「地域性」があるという共通性を子供たちと見出しました。そこで、日野市の滝合小界隈にも、日本の伝統を味わえるようなものは、あるのだろうか。と問いかけ、日野平山地区、とりわけ、滝合小界隈の伝統を探究しました。

児童は、滝合小界隈には、「伝統文化を味わえるものは、ない！」と、自信をもって発言していましたが、教師からの紹介を受けると、毎日、通っていた場所や放課後に遊んでいた場所が、伝統文化を味わえる場所であることを知りました。そして、もっと調べていきたいと興味関心をもち、課題設定ができました。課題設定の場面では、慣れ親しんだ思考ツールを活用して、情報を整理して、まとめ、学習の見通しを立てることができました。調べ学習を通して、滝合小界隈にも、伝統文化を味わえるものがあり、これからも平山地区滝合小界隈の歴史や伝統をのこしていきたいと考えました。

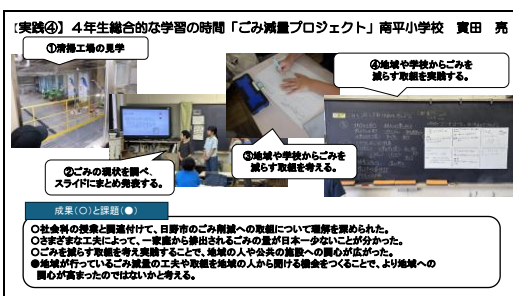


日野第一小学校の5年生では、総合的な学習の時間で、『SDGs』について学んでいます。今年度は、SDGsの視点から日野市の工夫や努力について調べる活動を通して、日野の魅力を探究しました。児童は、日野は自然が豊かで歴史的なものも多く、その魅力を伝え残そうとする取組があることをこれまでに学んできていますが、その他にも、日野を良くするために様々な取組があることを知りました。分かったことを発表し合うことで、日野の魅力についてさらに理解を深めました。さらに、日野のために自分たちに何ができるかを話し合いました。

学習を通して、児童は自分たちの暮らす地域のよさを残そうとするたくさんの取組があることを知り、地域のよさを大事にしたいという思いをもつことができました。



平山小学校では、総合的な学習の時間に地域農家の方から様々なことを教えていただきながら平山陸稲を育てる農業体験に取り組みました。平山地域で守り育ててきた伝統的なお米であることを知ることで、「来年の4年生に繋げたい」「平山陸稲を守るために私たちにできることはないか」と自ら課題意識をもち、調べ学習をすすめたり友達と意見交換をして発表したり、主体的に農業体験に取り組む子供たちの姿が見られました。また地域農家の方々と一緒に活動を進めていくことで、農家の方の生産者としての思いや願いにも気付くことができ、貴重な経験ができたのではないかと考えます。



南平小学校では、ごみの問題やその背景を調べる活動を通して、ごみの問題は自分たちの生活と深くかかわりがあることを理解し、自分たちの生活に生かすことができるように学習を進めました。まず、社会科で「ごみ」について学び、日野市のごみ処理施設を見学し、学習したことを実際に見て確かめ、日野市のごみ減量に向けた取組を理解しました。その後、様々なごみ問題を調べ、自分たちでもできるごみを減らすための方法を考え実施し、活動を振り返りました。この学習をもとに、日野市の魅力に気付き、自分たちも日野をきれいに保ちたいという意欲を高めることができました。今後は、さらに日野市の取り組みに関心を高めるため、ごみ削減への取り組みを企画運営している人材を活用することが必要であると感じました。

【 成果と課題 】

成果

・グループで『地域』の範囲について考えることができた。研究授業では、はじめは「地域に属している古いものは何もないのではないか」と考えていた子供たちにも、郷土に誇る施設を調べる活動を通して、地域の魅力に気付かせることができ、平山地区滝合小学校界隈に対する愛着を高めることができた。

・思考ツールを活用することで、児童は自分の考えを視覚的に整理することができ、学習の精選しを立ってやすくなったり、問題の解決方法に気付きやすくなり、意欲的に学習に取り組むことができた。

課題

・研究授業では、歴史的建造物という視覚的に歴史を味わせる物にのみ焦点を当てたが、より広げてもよかつたかもしれない。自然や行事など、幅広い視点で調べることができると、より多くの魅力に気付ける。

グループで協働して行った滝合小学校「地域の伝統文化」の研究授業の成果と課題です。

成果は、自分たちが暮らす『地域』の範囲を、「滝合小学校周辺」から「平山地区」へと視野を広げ、平山地区に即した題材を基に教材を開発できたことです。自分たちの学校の周りにあるもの古いものは児童の反応がよく、他に地域の古いものはどんなものがあるかを意欲的に考えようとする様子が見られました。

課題は、授業の中で調べる選択肢を建造物に絞ってしまったことです。自然や行事など、幅広い視点で見つめてみると、より多くの地域の魅力に気付けるかもしれません。それでも、今回の授業を行ったことで、児童が自分たちの住む地域により興味関心をもち、これから日野市のよさについて理解を深めていくきっかけとなったのではないかと考えます。

以上でBグループの発表を終わります。

第5学年 総合的な学習の時間指導案

令和6年10月22日(火) 5校時

学校名 日野市立滝合小学校

対象 第5学年1組25名

指導者 富田 有作

1 研究主題・目指す児童像

○研究主題

「郷土への愛着を高め、地域と共に生きようとするひのっ子の育成」

○Bグループ研究テーマ

「郷土の良さを知り、それを育む郷土の営みに協力しようと思う児童の育成」

2 単元名

「つながる、つなげる日本文化」(全40時間)

3 単元の目標

知識及び技能	日本の伝統文化の価値や特徴、伝統文化を守り継承してきた人々の思いや願いなどを理解することができる。
思考力、判断力、表現力等	日本の伝統文化と自身との関わりから課題を設定し、集めた情報を整理しながら、分かりやすく表現することができる。
学びに向かう力、人間性等	探究活動に主体的協働的に取り組み、自分たちにできることや自分自身との関わりについて考えようとしている。

4 単元の評価基準

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
①日本の伝統文化のよさや特色、それらに関わったり受け継いだりしている人々の思いや願いを理解している。	①日本の伝統文化への関わりを通して感じた関心をもとに自ら課題をつくり、解決の見通しをもっている。	①課題解決に向けて、主体的協働的に取り組み、自身の活動を振り返りながら探究活動に取り組もうとしている。
②目的や対象に応じ適切に、調べ学習を実施している。	②課題の解決に必要な情報を、手段を選択して多様に収集している。	②自分と違う意見や考えのよさを認め、生かしながら協働して学び合おうとしている。
	③課題解決に向けて、集めた情報を整理・分析し、根拠をもとにして考えている。	③日本の伝統文化との関わりに関心をもち、今後の学習の在り方や自分の生き方を考えようとしている。
	④相手意識や目的意識をもち、分かりやすく表現している。	

5 単元について

日本の伝統文化は、今や世界に誇れる文化として多種多様に存在している。日本の伝統文化を観光の目的として来日する外国人が多く、その外国人たちの多くが「日本らしさ」を求めているのではないだろうか。外国人たちが感じる「日本らしさ」のほとんどが、長年に渡って築き上げられてきた日本の伝統文化である。

外国人たちが感じている日本の伝統文化を、現代に生きる子供たちがどのくらい身近に感じているだろうか。幼年期から触れてきた折り紙や和食、小学校で学習する書道など児童が身近に感じている文化もある一方で、武道や芸術芸能など児童にあまり馴染みのない文化も少なくない。伝統文化の広がりだけでなく、その奥深さやよさなどへの認識は、自分たちを含め多くの人々の生活や人生に深く根付いているとはいえない。

本単元では、日本の伝統文化の体験活動や調査活動を通して、そのよさや特色に加え、伝統文化を担う人々の思いや願いを理解し、伝統文化が抱える課題に目を向けて考えたり、課題解決に向けた取組について考えたりしていく。小単元2では、子供たちが日々生活している滝合・西平山地域等の伝統文化に目を向けさせ、様々な探究活動を通して、日本の伝統文化への理解を深めるだけでなく、自身の生き方を見つめ直し、社会とのつながりを考えていくきっかけとなる単元としていきたい。

6 児童の実態

～児童と「総合的な学習の時間」～

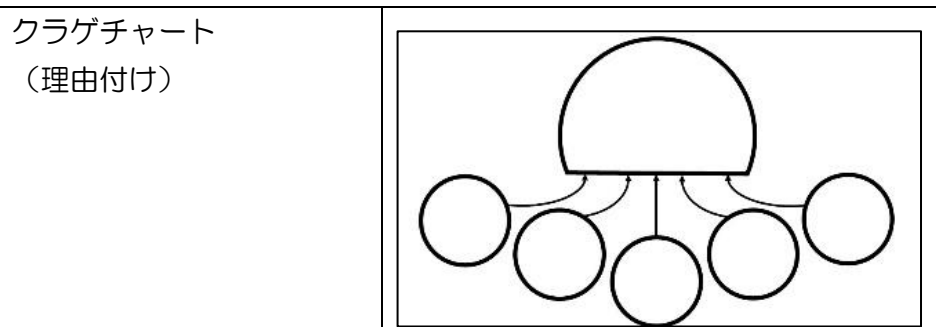
本学級の児童が第4学年のときには、「福祉」をテーマに総合的な学習の時間において、体験活動や調査活動を通して自らの課題に対して探究活動を行い、様々な立場の人の願いや思いを考えることができた。また、意図的に対話の時間を設け、得た知識や考えを児童同士が共有していくことで、児童が自分たちの課題により主体的に関わろうと姿勢が見られた。

総合的な学習の時間の進み方については概ね理解している児童が多く、自分から課題に向き合い、自分なりに探究したい課題を決めて積極的に調べることができる。しかし、調べたことを整理したり、表現したりすることには課題を感じている児童が多い

7 本単元に関わる手だて

①思考ツールの活用【クラゲチャート】

思考ツールを活用して、児童が自身の考えを深めたり、新しい考えに気付いたりすることができるようにする。また、児童の「考えること」を助け、友達との対話にも自信をもって臨むことができる。



本時では、「クラゲチャート」を活用して思考の整理を行う。「クラゲチャート」は、「クラゲチャート」は自分の意見に経験や情報を整理して理由を言うときに役立つものである。自分が調べたい事柄について、どんなことに興味関心をもったのか、理由を明確にすることで、主体的な学びにつなげていきたい。

8 指導計画（総時数 時間 ○の数字は時数）

◆の評価について・・・【知・思・主】及び【ア・イ・ウ】については評価規準を参照

学習過程	学習活動	○教師の指導・支援 ◆評価規準
小単元1：日本の伝統文化を知ろう【課題設定】13時間		
【課題設定】	①日本の伝統文化には、どのようなものがあるのかを出し合う。(1) ②情報収集の手立てを考える。(1)	□イメージマップを使い、児童の伝統文化に対するイメージを視覚的に広げる。
【情報収集】	③体験活動を通して、日本の伝統文化に触れ、大まかな特色や携わる人々の思いを知る。(5) ④本やインターネットを活用して、体験した伝統文化に関する情報を集める。(3)	□体験活動への意識を高めるために、学びたいことや聞きたいことを具体化して活動に臨むようにする。 □学校図書館や市内の図書館を活用する。 ◆目的や対象に応じ適切に、調べ学習を実施している。(知―②)
【整理・分析】	⑤体験や集めた情報から、日本の伝統文化の特色について整理する。(2) 「よさ」「現代との違い」 「不思議」「驚き」「面白さ」	□視点を明確にして話し合うようにする。 ◆課題解決に向けて、集めた情報を整理・分析し、根拠をもとにして考えている。(思―③)
【まとめ・表現】	⑥整理した情報をもとに自分たちでできることを考え、単元全体のめあてを設定する。(1)	□伝統文化に携わる人々の思いと、自分たちの願いとを関連付けながら考えるようにする。 ◆日本の伝統文化への関わりを通して感じた関心をもとに自ら課題をつくり、解決の見通しをもっている。(思―①)

学習過程	学習活動	○教師の指導・支援 ◆評価規準
小単元2：日本の伝統文化を詳しく知ろう【情報収集・整理分析】14時間		
【課題設定】 (本時)	①滝合地域で詳しく知りたい伝統文化やその課題を決める。(1) ②情報収集の手立てを考える。(1)	□前時までの活動を視覚的に振り返り、単元全体のゴールイメージをもてるようにする。 ◆滝合地域の伝統文化への関わりを通して感じた関心をもとに自ら課題をつくり、解決の見通しをもっている。(思一①)
【情報収集】	③本やインターネットを活用して調べたり、インタビューなどの調査活動を通して、自らの課題を解決するための情報を集める。(5)	□学校図書館や市内の図書館を活用する。 ◆課題の解決に必要な情報を、手段を選択して多様に収集している。(思一②) ◆課題解決に向けて、主体的協働的に取り組み、自身の活動を振り返りながら探究活動に取り組もうとしている。(主一①)
【整理・分析】	④集めた情報から、課題解決に向けた情報を整理する。(5)	□「分かったこと」「考えたこと」「伝えたいこと」など、視点を明確にしながら情報を整理する。 ◆滝合地域の伝統文化のよさや特色、それらに関わったり受け継いだりしている人々の思いや願いを理解している。(知一①)
【まとめ・表現】	⑤グループごとに伝えたい内容を考え、まとめたことを発表する。(2)	□発表を見る視点を明確にすることで、友達によさに具体的に気付くことができるようにする。 ◆相手意識や目的意識をもち、分かりやすく表現している。(思一④)
学習過程	学習活動	○教師の指導・支援 ◆評価規準
小単元3：日本の伝統文化を伝えよう【まとめ・表現】13時間		
【課題設定】	①学習したことをだれに、どのように伝えるかを考える。(1) ②伝える方法について考える。(1)	□相手や目的に応じて様々な表現方法があることや具体的な方法を伝える。 ◆日本の伝統文化への関わりを通して感じた関心をもとに自ら課題をつくり、解決の見通しをもっている。(思一①)

【情報収集】	③相手を意識した表現方法を考えながら情報を整理したり、まとめたりする。(3)	<p>□途中で各グループの情報や表現方法について共有比較し、互いのよさに目を向けられるようにする。</p> <p>◆自分と違う意見や考えのよさを認め、生かしながら協働して学び合おうとしている。 (主一②)</p>
【整理・分析】	④発表の練習をする。(3) ⑤グループごとに発表を見せ合い、良い点や改善点を伝え合う。(2)	<p>□自分たちの思いや伝わる発表になっているか、視点を明確にしながら互いに発表を見るようにする。</p> <p>◆相手意識や目的意識をもち、分かりやすく表現している。 (思一④)</p>
【まとめ・表現】	⑥「滝合日本祭(仮)」を開催し、日本の伝統文化を伝える。(2) ⑦単元全体を振り返り、自分たちの成長や今後の生き方について考える。(1)	<p>◆日本の伝統文化への理解は、由来・歴史等や地域の方々の努力や工夫などを探究的に学習してきたことの成果であることに気付いている。 (知一③)</p> <p>◆日本の伝統文化との関わりに関心をもち、今後の学習の在り方や自分の生き方を考えようとしている。 (主一③)</p>

8 本時の展開 14/40

(1) 本時のねらい

日野市平山地区の中の滝合小学校の周りにある伝統文化について話し合い、詳しく調べたいことを決めることができる。

(2) 本時の展開

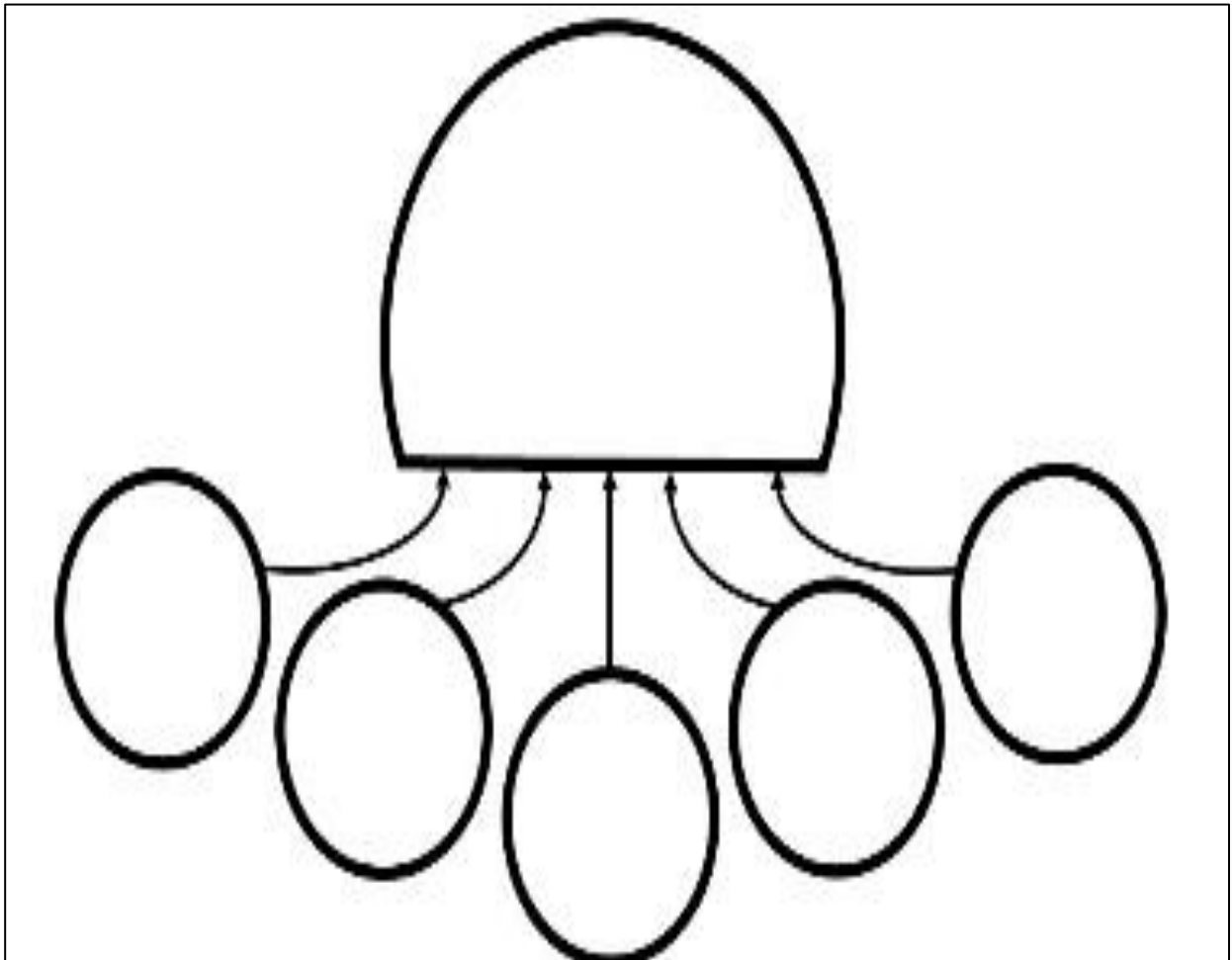
学習活動	◆評価 ■目指す児童の姿	●教師の支援
1 これまでの学習で学んだ伝統文化を振り返る。		●プレゼンテーションソフトを活用し、視覚的に振り返ることができるようにする。
2 本時のめあてを知る。	■滝合小学校の周りに残る伝統文化について興味・関心をもっている。	
滝合小学校の周りには、どのような伝統文化があるのだろう		
3 滝合小学校の周りにある伝統的なもの（昔からあるもの）について話し合う。 ・八幡神社 ・平山陸稲	■滝合小学校の周りに残る伝統文化について興味・関心をもっている。 ■生活圏に、歴史的伝統文化を感じることができる物があることを知り、より一層、関心を高めている。	●平山地区の地図とプレゼンテーションソフトを活用し、視覚的に捉えることができるようにする。
3 平山地区「滝合小学校の周りには、どれがよいか」について考える。 ・クラゲチャートを活用し主張を整理・分析する。	■自分の思いに合うものを選び、理由も考えている。 ◆滝合地域の伝統文化への関わりを通して感じた関心をもとに自ら課題をつくり、解決の見通しをもっている。 (思一①) ■よく分からないから、もっと詳しく知りたいと考えている。	●クラゲチャートを活用し、情報や経験の中から、主張の根拠やその理由について、思考を整理できるようにする。
4 より詳しく知るための方法を考える。 ・地域の人達へインタビュー ・郷土資料館の活用 ・市立図書館の活用	■必要な情報を得るための方法を考えている。	●インターネットや一般的な書籍からは、情報を収集しにくいことを知らせ、多様な方法で情報収集が必要なことを知らせる。
5 ふりかえり ・平山地区滝合小学校周辺の伝統文化に触れた感想を書く。	◆滝合小学校の周りに残る伝統文化についてより一層、関心を深めている。	●学習の最初と最後で、見方・考え方の違いを書くように指導する。

「滝合小の周りにおける伝統文化を知ろう」

5年 組 名前【

】

Q、どれを利用すれば、地域の伝統文化を伝えられるかな？



3 Cグループの研究

令和6年度
Cグループ
日野の良さに気付き、郷土を愛する
ひのっ子の育成

世話人 西川 愛 (潤徳小学校)
廣岡 憧真 (日野第四小学校)
船引 颯太 (日野第八小学校)
荒井 椋平 (七生緑小学校)
井上 晴香 (第四幼稚園)
高橋 寿忠 (市政図書室)
顧問 齋田 満 (元渋谷区立常磐松小学校長)

令和6年度 郷土教育推進委員会 研究主題
『郷土への愛着を高め、
地域と共に生きようとするひのっ子の育成』

↓

Cグループ研究テーマ
「日野の良さに気付き、
郷土を愛するひのっ子の育成」

Cグループでは、今年度の研究主題を受けて、郷土への愛着を高めるためには、まず「良さに気付く」ことが大切であると考え、グループの研究テーマを「日野の良さに気付き、郷土を愛するひのっ子の育成」とし、良さに気付かせることを重点とした授業づくりに向けて研究を進めました。

今年度の研究主題を受け、郷土への愛着を高めるためには、日野市の良さを知り、それを語れるようになるレベルになる必要があると考えました。そこで、研究テーマを「日野の良さに気付き、語れるひのっ子を目指して」とし、児童が良さを語れる授業づくりに挑戦しました。児童の立場で考えやすい教材として、日野市の特色ある学校給食に着目し、どの地区でも行えるような授業をそれぞれの学校で考え実践を行いました。

研究の経緯

Cグループ研究テーマ
「日野の良さに気付き、
郷土を愛するひのっ子の育成」

↓

○主体的に良さに気付いてほしい。
○幼稚園児、3・4年生の発達段階を考えて

体験活動を通して

日野の良さに気付かせる方法は様々あると思いますが、Cグループでは、幼稚園児、3・4年生という子供たちの発達段階や、子供たちの主体性を大切に考え、体験活動を通して、良さに気付くということを経験する方法として、研究を進めました。

研究テーマにのっとり、各々が体験活動を通して、日野の良さに気付くことができる授業を作成し、実施しました。これから各々の実践について紹介します。

【実践①Cグループ研究授業】

第3学年 総合的な学習の時間

「広げよう！ぼくたち
わたしたちの世界」

日野第八小学校 船引 颯太

次に、日野第八小学校で行った、Cグループの研究授業について報告します。

3年生を対象として総合的な学習の時間で授業を行いました。日野第八小学校の3年生は、総合的な学習の時間で、「広げよう！ぼくたち私たちの世界」という学習に取り組みました。グループの研究テーマに沿って、体験的な活動を通して、良さに気付くということに焦点を当てて計画しました。

ポスターやスライドにまとめ、校内や校門に貼ったり、学校のHP（ホームページ）に掲載したりして、児童が考えた方法で広めることができました。

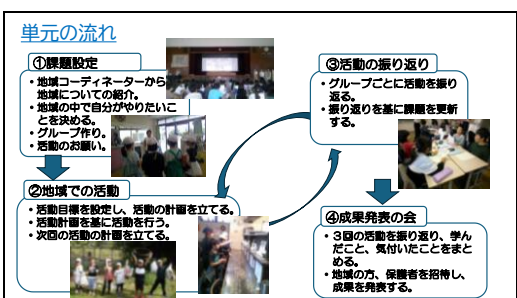
授業に向けて
「気付かせたい良さ」とは

- ①子供たちにとって身近なのは、「日野市」ではなく家や学校の近くの「地域」
- ②主体的に良さに気付いてほしい

↓

地域の「人・もの・こと」の良さに、体験活動を通して気付く

まず、授業を計画するにあたって、子供たちに気付かせたい良さについて考えました。子供たちにとって、日野市というくくりはとても大きく、日野市は身近ではありません。そして、児童が主体的に良さに気付かなければ、良さを教えられているだけで、郷土に愛着はわきません。そのため、3年生にとって”日野”の良さに気付くという活動は児童主体の活動にならず、郷土を愛するひのっ子の育成につながらないと考えました。そこで、子供たちが地域の中で課題を見つけ、地域の人と関わりながら主体的に体験活動を行う中で「地域の人・もの・ことの良さ」に気付けるような授業を計画しました。



この単元では、まず、地域に出て体験活動をする上で、子供たちの「やりたい」を課題として設定しました。その後課題別にグループに分かれ、活動計画を立て、実際に活動を行いました。活動は全部で3回行い、地域の公園の掃除や、お店のお手伝いなど、子供たちがやりたいことをさせてもらいました。活動の後は振り返りをし、振り返りを基に、次回の活動計画を立てる。というサイクルで活動を行いました。3学期には、お世話になった方を招待しての、成果発表会を行います。

研究授業の様子 3回目の活動計画づくり


「もっと〇〇」という目標をたてよう

- もっとみんなが笑顔になるお店にしたいな。
- もっときれいでいごこちのいい公園にしたい。
- もっと人気のお店になってほしい。

次に研究授業の様子です。研究授業では、3回目の活動計画を立てる活動を行いました。2回目の活動の振り返りを受けて、もっと〇〇という目標を決め、活動の計画を立てました。子供たちは各グループで「もっと〇〇」という目標を話し合う中で、「もっとみんなが笑顔になる」「もっときれいな」などの地域の人々の立場に立ち、話し合いを進めることができていました。子供たちからは、地域の人々のため、お店のためという言葉が出てきており、地域を大切にしたいという気持ちが表れていました。

【実践②】小3 総合的な学習の時間
「野菜博士になろう」
潤徳小学校 西川 愛

▶ JAや、ナシ園を訪問し、
▶ 日野産の野菜について調べ、
▶ 新聞にまとめました。

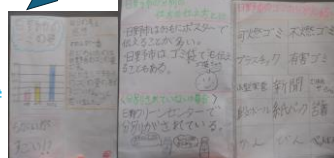


潤徳小学校では、JAやナシ園を訪問し、日野市の野菜について調べました。日野産の野菜が豊富なこと、給食に使われていることに驚いていました。日野産の野菜から興味を広げ、野菜について調べたことを新聞にまとめました。給食で、日野産の野菜が出た時にはとても喜んでいました。

【実践③】小4 総合的な学習の時間
「ひのっ子ゴミプロジェクト」
日野第四小学校 廣岡 健典

パンフレットを作成し、
友達同士で交流をしました。

浅川清流組合と
日野クリーンセンターを見学



日野第四小学校では、総合的な学習の時間でゴミを題材にし、その一環で、日野市にあるゴミ処理施設の見学をしました。実際に現地で見たり、聞いたりして学んだことを生かして、ゴミについてのパンフレットを作成しました。日野市が行っている取り組みや、日野市が誇れるところに関心を向け、地域に対する思いを深めることができました。

【実践④】小3 国語
「わたしの町のよいところ」
七生緑小学校 荒井 柳平



自分の町について紹介するものを決める。 → 紹介文の作成・発表（夢が丘小との交流）

日野市・地域への関心・愛着を育てる。

七生緑小学校では、自分が住んでいる町で好きな場所やおすすめのものについての紹介文を作成しました。紹介したいものとその理由について、誰にどのように紹介するのかを考え、主体的に取り組むことで、地域に対する思いを深めていきました。

また、夢が丘小学校との交流会を通して、お互いに地域のよさを伝え合うことで、多様な視点で考える力を高めることにもつながりました。

【実践⑤】4・5歳「高幡不動尊」 第四幼稚園 井上 晴香


高幡不動尊ってどんなところ？
自分から面白い話もあるよ。

見に行ってみよう！
吉野先生が教えてくれたよ。

知ったことをお家の人に
教えよう！

成果と課題

- お不動様に興味をもったり、高幡不動尊に親しみをもったりすることができた。
- 知ったことを保護者に伝える機会を設けることで、保護者にも地域を知ってもらった機会になった。
- 今後も自分たちの地域に親しみをもてるように意識づけしていく必要がある。



第四幼稚園では、高幡不動尊について取り上げました。高幡不動尊に祀られているお不動様について、また、『鳴き龍』『はたかけの松』『お鼻井戸』の昔話についても、スライドを通して話をしました。そして、実際に高幡不動尊に出かけ、講師に吉野先生をお招きして、境内を見学をしながらお話をさせていただきました。その後、教えていただいて知ったことを、絵に描いたり作ったりして、保護者の方に伝える機会を設けました。事前指導で、子供たちに高幡不動尊について知らせ、その後に実際に見に行ったことで、より興味をもって見たり話を聞いたりする姿が見られました。また、知ったことを保護者に伝えることで、保護者も地域のことを知ったり、子供と一緒に興味をもってもらったりする機会になりました。子供たちが自分たちの住む地域に親しみをもてるように、日々話題にしていながら意識づけしていくことや、教師自身も地域のことを深く知る大切さを改めて理解しました。

成果と課題

成果

- ・子供たちのやりたいことから始まった学習であるため、主体的に地域の社会に関わり、地域の「ひと・もの・こと」の良さに気付くことができた。

課題

- ・その地域固有の良さを知ることはできなかつたため、地域の自然や歴史、産業などに関心を向けることも考えられる。
- ・地域の「ひと・もの・こと」に関わるだけでなく、人々の思いなどにも触れることも大切。

グループで協働して行った日野第八小学校「広げようぼくたち私たちの世界」の研究授業の成果と課題です。

成果は、子供たちの「やりたい」という思いから始まった学習であるため、主体的に社会と関わることができました。その関わりの中で、地域の「ひと・もの・こと」の良さに気付くことができました。

次に、課題は、地域固有の良さについて知ることはできませんでした。郷土への愛着を高めるためには、日野固有の良さを知ることも大切であるため、自然や歴史、産業などに関心を向けることも考えていく必要があります。また、地域に関わる中で、人々の思いなどに触れることができたら、さらに良さが深まり、郷土に対する愛着が高まったのではないかと考えられます。この経験を活かし、これから地域の自然、歴史、産業について知りたいという気持ちを郷土愛として社会科等で勉強していくための土台としていきます。

以上でCグループの発表を終わります。

第3学年 総合的な学習の時間 学習指導案

日時 令和6年11月19日(火)
5校時 13:20~14:05
学校名 日野市立日野第八小学校
対象 第3学年4組 26名
会場 2階 3年4組教室
授業者 教諭 船引 颯太

研究主題「郷土への愛着を高め、地域と共に生きようとするひのっ子の育成」
Cグループ 研究テーマ「日野の良さに気づき、郷土を愛するひのっ子の育成」

1 単元名 広げよう！ぼくたちわたしたちの世界

2 単元の目標

- ・地域での具体的な体験活動を通して、地域の人や環境などの良さについて気付くことができる。
(知識及び技能)
- ・地域の中で、自分の関心から課題を設定し、具体的な体験活動を通して追究することができる。
(思考力、判断力、表現力等)
- ・課題の解決に向けて目的意識をもち、身近な人と力を合わせて探究活動に取り組むことができる。
(学びに向かう力、人間性等)

3 単元の評価規準

A 知識・技能	B 思考力・判断力・表現力	C 主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none">・地域と自分のつながりに気づき、地域の一員であることを理解している。・地域での体験活動を通して、地域の良さについて気付いている。	<ul style="list-style-type: none">・自分の関心から課題を設定し、活動しながら追及している。・地域の対象から得たことを自分なりに判断していくことができる。	<ul style="list-style-type: none">・地域の中から決めた課題の解決に取り組もうとしている。・対象とのかかわり方を楽しみながら、自分なりの方法で活動しようとしている。

4 指導観

(1) 単元観

本単元は、小学校学習指導要領（平成29年3月告示）第5章総合的な学習の時間の以下の内容に該当するものである。

第2 各学校において定める目標及び内容

2 内容

各学校においては、第1の目標を踏まえ、各学校の総合的な学習の時間の内容を定める。

3 各学校において定める目標及び内容の取扱い

(3)各学校において定める目標及び内容については、日常生活や社会との関わりを重視すること。

(5)目標を実現するにふさわしい探究課題については、学校の実態に応じて、例えば、国際理解、情報、環境、福祉・健康などの現代的な諸問題に対応する横断的・総合的な課題、地域の人々の暮らし、伝統と文化など地域や学校の特色に応じた課題、児童の興味・関心に基づく課題などを踏まえて設定すること。

本単元は、小学校学習指導要領第5章総合的な学習の時間第2の3の(5)に示された3つの課題のうち「児童の興味・関心に基づく課題」にスポットを当てて取り組んでいる。

本単元では、地域での課題別体験活動を主として、地域に愛着をもち、地域のよさや課題を見つけ、地域をよりよくしていこうとする子供の育成を目指す。単元の導入では、活動のガイダンスの後、子供たちの「やってみたい」から課題を設定する。その後課題別のグループに別れ、計画をたてて地域での体験活動を行う。1回目の活動を行った後、課題を見直し、より深化した課題で活動に取り組めるようにする。新たな課題では、修正・改善を繰り返しながら、見通し・行動・振り返りのサイクルを回しながら、経験を深め工夫しながら活動できるようにする。単元の最後には、活動の成果を祝う会を設定する。活動の成果を祝う会では、活動でお世話になった地域の方々に対して、学習の成果を発表する。発表の際には、様々な立場の地域の方から価値づけられ、充足感を得て終わることができるようにする。そして、今年度の経験を基に、来年度の課題を設定することを本単元のゴールとする。

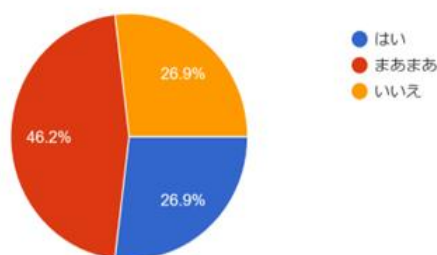
(2) 児童観

本学級の児童は、2年生の生活科の学習において、まち探検をして興味がある施設にインタビューをし、1年生に向けて発表するという活動をしている。そのため、地域にどんな施設があり、どのようなことをしているのかは、ある程度知っている状態である。

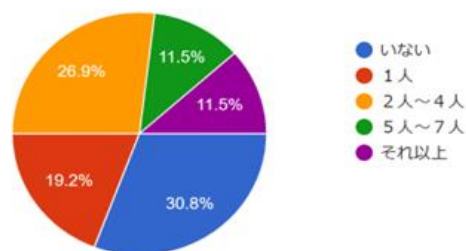
学級の児童(26名)へのアンケートでは、「自分の地域について詳しいですか。」という質問に対して、「はい」と回答した児童は7名(26.9%)、「まあまあ」と回答した児童は12名(46.2%)、「いいえ」と回答した児童は7名(26.9%)であった。「はい」または「まあまあ」と回答した児童に地域の良いところを尋ねたところ、「公園がいっぱいある」、「自然がいっぱいある」などの回答がほとんどであり、地域の人についての回答は2名のみであった。また、「自分の近所の人で名前が分かり、挨拶ができる人はどれくらいいますか。」という質問に対して、「いない」「1人」と答えた児童は13名(50%)、「2～4人」と答えた児童は7名(26.9%)、「5名～7名」「それ以上」と答えた児童は6名(23%)であった。

これらのことから、本学級の1/4の児童は、地域について詳しくないと思っており、詳しい、まあまあ詳しいと思っている児童も地域の自然や公園についての関心はあるが、地域の施設や人などについて関心をもち良さととしてとらえている児童はごく少数だと言える。特に地域の人との関わりは希薄な児童が多い。そこで本単元では、地域の方と直接かかわりながら体験活動を行うことで、「地域」という社会に参画することを目指していきたい。そこで、新たな視点で地域を見つめ、新たな課題を見付けたり、地域の様々な良さを見つけたりしながら学びを進めていくことをねらいとしている。

自分の地域（自分の家や八小のちかく）について詳しいですか。
26件の回答



自分の近所の人で名前が分かり、あいさつができる...ですか。
26件の回答



(3) 教材観

活動の舞台となる本校の学区域(地域)は、高幡不動駅・百草園駅という2つの駅があり、駅の周りには商業施設、少し離れると、住宅街となっており、様々な年代の人が住んでいる地域である。川が2本流れ、用水が通るなど、自然と関わることができる地域でもある。商業に関して言えば、チェーンの店舗もあるが、地域に根差した個人経営のお店も多くある。このような地域であるが、本校の児童が学習で地域に関わる機会はあまり多くない。地域体験学習を通して、「地域」という社会に参画し、新たな目で地域を見つめ、新たな課題を見つけたり、地域の様々な良さを見つけたりしながら学びを進められるようにしていきたい。

5 単元の指導計画（全70時間）

次	時間	○主な学習活動と内容	・支援、留意点
第一次 課題設定	1 ～ 5	○ガイダンス <ul style="list-style-type: none"> 総合的な学習の時間で学ぶことや学び方について理解する。 様々な実践例を知る。 地域コーディネーターから、地域のお店や施設の紹介を聞き、活動への意欲をもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の中で課題を見つけられるように、実践例やコーディネーターの話を工夫する。
	課外 ・ 6 ～ 8	○課題発見 <ul style="list-style-type: none"> 生活の中で自分なりの課題を見つける。 自分がやってみたいことを「かえるカード」に書く。 地域の中でやりたいことを探しながら、自分の興味関心に合わせて「かえるカード」を更新する。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域で実現可能なやりたいことを書くように指導する。 やりたいことをたくさん見つける中で、自分が一番興味関心のある内容を決める。
	9 ～ 13	○グループ作り <ul style="list-style-type: none"> 「かえるカード」を見合い、同じような課題をもつ友達とグループを作る。 話し合いながら、グループの名前や役割を決める。 グループメンバーと自分のやりたいことを共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> 全員の意見を取り入れて話し合いができるように、声を掛ける。
(情報収集・整理・分析) 第二次 地域での活動	14 ～ 15	○課題別グループでの活動企画書作り <ul style="list-style-type: none"> グループで話し合い、活動目標を設定する。 目標から、活動の企画書を作る。(活動の内容、活動の場所) 	<ul style="list-style-type: none"> 良い話し合いができているグループを賞賛し、広める。 切実感をもって、意欲的に取り組める目標を設定できるようにする。

第二次 地域での活動 (情報収集・整理・分析)	1 6 5	<p>○地域体験学習①（一次課題…子供たちの「やりたい」から作った課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動日の活動計画書をつくる。 ・グループごとに活動先を訪問し、活動の受け入れについてお願いをする。 ・活動計画に沿って活動を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・企画書を基に、1回目の活動でやりたいことを、計画書に記入させる。 ・自分たちの活動目標に合う活動になるように声を掛ける。 ・きちんとした態度でお願いできるように練習をする。
	2 6 7	<p>○活動の振り返りと課題の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動を振り返り、自己の課題を更新する。（二次課題） ・新たな課題から企画書を書き加えたり、書き直したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループで話し合い、活動企画書を確認するように声を掛ける。
	2 8 3 9 (本時)	<p>○地域体験学習②（二次課題…「やりたい」からさらに深化した課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新たな課題を基に、活動日の活動計画書をつくる。 ・活動計画に沿って活動を行う。 ・振り返りをする。 ・振り返りを基にして、次回の活動計画について話し合う。（本時） 	<ul style="list-style-type: none"> ・前回の振り返りを生かして話し合い、活動の計画を立てられるようにする。 ・きちんとした態度で活動に臨めるように話をする。 ・活動の振り返りが次回に生かせるようにワークシートを用意する。
	4 0 5 0	<p>○地域体験学習③（二次課題から場合によっては変化）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動日の活動計画書をつくる。 ・活動計画に沿って活動を行う。 ・振り返りをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動の振り返りや活動企画書から、計画を考えられるように声掛けをする。
第三次 まとめ・表現	5 1 5 2	<p>○活動の振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域体験活動を振り返り、グループの目標をどのくらい達成できたかを話し合う。 ・活動をして、良かったこと・分かったことを振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今までの活動の記録や、写真を見せ、活動を思い出せるようにする。

第 三 次 ま と め ・ 表 現	5 3 5	○活動の成果を祝う会の準備 ・振り返ったことを話し合っ てまとめる。 ・プレゼンの仕方について話 し合う。 ・プレゼンをつくり、プレゼ ンの練習をする。 ・各グループの活動に関わっ てくれた人に招待状を書く。	・地域体験学習を通して、 何を発表したらよいかを考 えさせる。 ・プレゼンの方法をいくつ か示し、選べるようにする。 ・良いプレゼンができてい るグループを賞賛し、学級 に広める。
	6 6 9	○活動の成果を祝う会 ・会場の準備をして、リハー サルをする。 ・ワークショップ形式でグル ープごとにプレゼンを行う。	・ワークショップ形式で発 表する際には、参観者がい ないグループが出ないように 配慮する。
	7 0	○次年度の課題について考 える ・活動の成果を基にして、次 年度の課題を設定する。	・次年度の活動に意欲をも てるように、見通しをもた せる。

7 指導にあたって

①「探究的な学習」、②「協働的な学習」、③「郷土教育」の3つの視点で指導を工夫していく。

① 「探究的な学習」

課題設定・情報収集・整理分析・まとめ表現という、探究的な学習の過程で学習を進める。単元を通してだけでなく、毎回の地域体験学習を行う際にも、見通しをもち、行動し、振り返るとい
うサイクルで活動するようにした。この学習過程を通して、子供たちは主体的・協働的に学習を
進め、課題の解決に向けて、より充実した活動に向かって進んでいくと考える。

② 「協働的な学習」

全体を通してグループを作って活動するようにする。グループで目標を決めたり、活動計画を立
てたり、振り返りをしたりとグループで話し合う機会が非常に多く、全70時間のうち60時間
程度は、グループでの活動となる。他者の意見を聞き、異なる視点から考えたり、意見を交流さ
せたりする活動を通して、他者と協働して取り組む力を育てていく。また、友達と一緒に活動す
ることにより、協力して最後までやり遂げた時の満足感や共に学ぶ楽しさを味わうことができ
ると考える。

③ 「郷土教育推進委員会」の研究テーマに迫るための手立て

「田野の良さに気付き、郷土を愛するひのっ子の育成」という研究テーマに対して、3年生とい
う発達段階を考慮し、「気付く」ことに焦点を当てて計画した。普段何気なく暮らしている児童に
とっては、ただ地域で活動するだけでは、良さに気付くことは難しいと考え、自分たちで地域
の中から課題を見つけ、地域の人と直接と関わりながら体験学習を行う。地域の方と直接かわり
ながら体験活動を行うことで、「地域」という社会に参画することができると思える。そこで、新
たな目で地域を見つめ、新たな課題を見付けたり、人から学ぶことの楽しさを味わったりしな
がら学びを進めていく。課題に対して工夫しながらの体験学習は、地域の自然や人と深く関わり
ことができ、その関わりを通して、地域の人・こと・ものを知り、地域の良さを感ずることが
できると考える。

8 本時の指導（全70時間中第39時間目）

（1）本時の目標

地域での活動を振り返り、より充実した活動計画をたてることができる。

（2）本時の展開

	○学習内容 ・学習活動	○指導上の留意点 ◎評価（評価方法）
導入 5分	○今までの活動を振り返る。 ・前時に行ったことを確認し、話合いの内容を思い出す。	○本時の活動に向けてイメージをもてるように話をする。
	もっと○○な活動計画たてよう。	
展開 35分	○グループで3回目の活動内容を話し合う。 ・振り返りからもっと○○という目標を決める。 ・最初に書いた3回目の活動計画を見返し、活動内容について話し合う。 ・ホワイトボードを用いて、意見をまとめながら話し合いを進める。 ・必要に応じてアドバイスカードを書く。 ○アドバイスタイム ・記入したアドバイスカードを基に全体で意見を出す。 ○アドバイスタイムを踏まえさらに話し合う ・計画を書き換えたり、書き加えたりする。 ・話し合い、活動内容をまとめる。 ○決まったことの報告 ・話し合っただけ決まった3回目の活動内容を報告する。	○前時で書いた個人用ワークシートや最初に書いた計画書を基にグループで話し合うように声を掛ける。 ○話し合いの内容が、設定した目標から外れないように適宜声を掛ける。 ○話し合いの中で、グループ外の人から意見が欲しい場合は、アドバイスカードを書くように声を掛ける。 ○グループの目標に沿った形のアドバイスカードになっているかどうか、事前に確認する。 ○グループで活動内容をある程度まとめるように声を掛ける。 ○もっと○○という目標とあわせて報告できるようにする。 ○いくつかのグループに限定して報告させる。
まとめ 5分	○学習の振り返りをする。 ・本時で決まったことを振り返り、次回の活動に見通しをもつ。	○次回の活動までの流れを伝え、見通しをもてるようにする。

（3）授業観察の視点

- ・学習活動は、郷土への愛着を高めるためのものとして適切であったか。
- ・本時の学習は、日野市の良さに気付き、郷土を愛するひのっ子の育成を目指す活動に繋がっていたか。

4 Dグループの研究

令和6年度
Dグループ

郷土を愛するひのっ子の育成を目指して
～指導事例集の周知活用～

世話人	小澤 正史 (東光寺小学校)
	山浦 真義 (日野第七小学校)
	柿崎麻理子 (仲田小学校)
	鈴木 規愛 (夢が丘小学校)
	秋田 克己 (日野第三小学校副校長)
	渡部 康弘 (中央公民館)
顧問	川島 清美 (日野第三中学校長)

研究テーマについて
郷土を愛するひのっ子の育成を目指して
～指導事例集の周知・活用～

- ・地域資源の教材化→郷土に対する愛情を高める。
- ・事例集アーカイブ、リーフレットの活用を推進する。
- ※現状・・・アーカイブを活用している事例が少ない。

<解決方法>

- ①研究授業や個人研究で実際に用いて検証
→市内教員へ周知、改善策の検討
- ②リーフレットの紹介・アンケート実施

Dグループでは研究テーマについて、地域の資源を学習計画の中で教材として意図的に位置付けることで、児童が郷土をより身近に感じることのできる学習計画の工夫を行いました。興味関心を高め、自分事として学びに向き合えるようにすることで郷土に対する愛情を高めることにつながると考えました。

また「指導事例集アーカイブ」の活用を促進するために、どのように周知し、アクセスしやすくすればよいか研究することを副題としました。

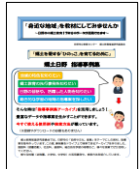
アーカイブ並びにリーフレットは、活用している事例が少ないという現状から、アンケートを作成して、存在や使用方法を周知すること、事例集を実際に用いるにはどのような課題があるかを把握することの2つを研究内容としました。

リーフレットとは
日野市郷土教育17年分の指導事例集アーカイブの紹介

- ・今すぐ使える使用例 (幼稚園～中学校まで)
- ・検索方法
- ・検索キーワードの例 など

閲覧場所

- ・「みんなの実践共有掲示板」
- ・全校共有 (P:) → 23郷土教育資料
- 郷土教育リーフレットPDF



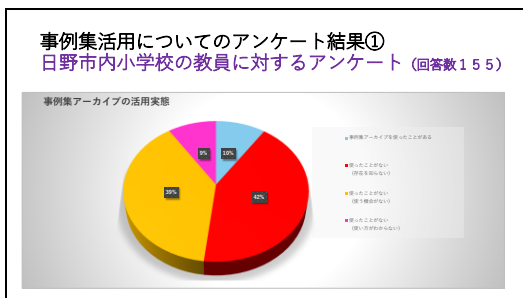
まず、リーフレットについてです。本日は本日リーフレットを別紙で配布しています。

日野市でこれまで令和5年度まで17年にわたって研究されてきた郷土教育の指導事例集をデータベース化し、データ活用が始まりました。

指導事例集アーカイブは、とても便利なサポートツールです。身近な地域の素材が教材化されており、異動されてきた方や年次の若い方にとっては、日野を理解することや、教材研究を効率的に進めることに役立ち、児童にとっても地域をより身近に感じられるような魅力的な先行事例があります。

令和5年度に作成したリーフレットは共有ドライブに保存してある事例集の検索方法や、検索キーワード例に加え、幼稚園から中学校までの活用例を載せてあります。OJTの機会や、年度始めにリーフレットの活用について周知いただけたら幸いです。校長先生方、ぜひ自校の先生方にご紹介ください。

アンケート結果について紹介します。



事例集活用についてのアンケート結果①
日野市内小学校の教員に対するアンケート (回答数155)

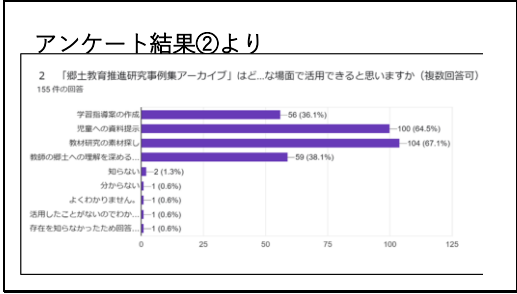
○「事例集アーカイブを使ったことがある」9.7%

活用に向けて大きな課題

○「使ったことがない」の主な理由

- ・存在を知らない。(43.2%)
- ・使用する機会がなかった。(39.6%)
- ・保存場所や検索方法が分からない。(9.4%)

今年度、Dグループでは、昨年度作成した「指導事例集アーカイブ」の活用状況を調査するため、日野市内の小学校教員を対象にアンケートを実施しました。その結果、「アーカイブを使ったことがある」と答えた人は全体の9.7%にとどまり、十分に活用されていないことが分かりました。使ったことがない人のうち、「存在を知らなかった」、「使用する機会がなかった」という回答が多く、周知の方法と、使いやすい内容の充実が必要であることが分かりました。



期待される活用場面について紹介します。こちらがアンケート結果です。

事例集活用についてのアンケート結果②
日野市内小学校の教員に対するアンケート
(回答数155)

○「どんな場面で活用できるか」

- ・教材研究の素材探し (67.1%)
- ・児童への資料提示 (64.5%)
- ・教師の郷土への理解を深める (38.1%)
- ・学習指導案の作成 (36.1%)

「どんな場面で活用できると思いますか」という問いに対しては、教材研究や郷土への理解、資料提示といった答えが多く挙がりました。このことから、学習指導案だけでなく、教材や資料を充実させていくことが求められていると分かりました。

<検証結果>

【メリット】
すでに出来上がっている指導案や資料を使える。


↓

質及び効率面で効果的な教材研究、資料提示が可能

【留意点】
・指導案や提示資料を加筆修正する必要がある。

検証した結果です。メリットは、質及び効率面で効果的な教材研究、資料提示ができることです。すでに地域を研究し、教材化しているので、日野市に特化した地域資源を授業に有効活用することができました。留意点は、資料の加筆訂正です。過去の資料を用いるため、現在の学校や児童の実態に合ったものに作り変えていくとよい、と分かりました。


指導事例集活用 研究授業について
 第4学年 特別の教科 道徳
 「故郷の歌 ～巽聖歌～」
令和元年度の実践例「2019(14)4年道徳「故郷の歌 巽聖歌(旭が丘)」より



巽聖歌が故郷を思っで作った詩から、郷土への思いを想像した。

成果①自然を描いた詩を通して、
 児童が郷土の風景への思いをもてた。

成果②身近な例を導入にすることで、
 児童が巽聖歌に興味をもてた。



次に、指導事例集アーカイブを活用した実践を紹介し
 ます。研究授業は、日野第七小学校第4学年 特別の
 教科 道徳「ふるさとの歌 ～巽聖歌～」という教材で
 行いました。参考資料は、2019年旭が丘小学校4年
 生のもので、アーカイブでは「4年」「道徳」をキ
 ーワード検索して、資料や指導案を簡単に探すことが
 できました。

岩手県出身で働きながら横須賀で詩作を続けた巽聖
 歌は、その代表作の多くがふるさと岩手県の豊かな自
 然の風景や、そこで家族と過ごす日々を題材として詩
 をつくっています。児童は、その詩に触れながら、巽
 聖歌がどのような思いで故郷の風景を描いたのかを
 想像しました。また、日野七小の校歌は3・4番の歌
 詞を昨年度卒業した6年生が作詞しており、その中
 にも日野七小の周りの風景を歌詞にしてある部分があ
 ります。児童は、巽聖歌や卒業生のように、自分が描
 きたい地域の景色を思い浮かべの中で、郷土への思い
 をもつことができました。


指導事例集活用 研究授業について
 「学習を通して児童が得た郷土への思い」
 巽聖歌の詩、七小卒業生がつくった校歌の歌詞などにふれ、自分
 だったらどんな風景を詩にしたいか、と想像し、地域への思いをもてた。

「指導事例集アーカイブ活用の利点」
 指導の流れや郷土資料とのつながりがすぐにわかる。また、地域に
 合わせた導入の工夫などもしやすい。

研究授業を通して、授業作りの過程で単元計画を参
 考にすることができ、学習を進める見通しをもつこ
 とができました。事例集にあった本教材は、巽聖歌
 が地域に根付いている旭が丘地区に合わせて最適化
 されたものでしたが、日野七小地区では巽聖歌はほ
 とんど知られていません。そこで、導入として巽聖
 歌が作詞した「たき火」が電車の発着メロディとな
 っている豊田駅の動画を見せ、児童の興味を喚起す
 ることとしました。このように、地域に合わせた工
 夫も、指導案自体がしっかりとできているため、組
 み込みやすくなっているとわかったことが、本研究
 授業の成果といえます。

**個人研究①授業者 小澤 正史(東光
 寺小)**

第4学年 社会科
 「受け継がれる祭り」



参考資料「2017(13)3年社会 高幡不動とお不動様」


検索方法 4年 社会 受け継がれる祭り
使用した理由 身近な地域の祭りを学習計画に位置付けるために
 先行事例として、学習計画作りの参考資料とした。

個人の実践についても紹介します。
 東光寺小学校の第4学年の社会科では、武蔵府中く
 らやみ祭りの取り組みをもとに地域の祭りを未来に
 受け継ぐにどうすればよいか考えました。
 地域の年中行事を単元に位置付けるために、他地域
 での先行事例を調べ、授業計画を立てる際の参考資
 料として事例集を活用しました。

個人研究② 授業者 柿崎麻理子(仲田小)

第4学年 総合的な学習の時間

「多摩川とともに生きる」



参考資料 「2007(3)4年総合「多摩川を渡ろう」」

検索方法 「多摩川」


使用した意図 多摩川探索活動をもとに課題を設定する学習計画作りや、児童が情報収集をする際の資料として活用した。

仲田小学校の、第4学年総合的な学習の時間では、多摩川探索活動をもとに探究課題を設定する学習計画作りや、児童が情報収集をする際の資料として事例集を活用しました。

個人研究③授業者 鈴木 規愛 (夢が丘小)

第4学年 特別の教科道徳

「豊かな自然カワセミ」



参考資料 2013(9)3年道徳「豊かな自然カワセミ」

検索方法 「3年」「道徳」「豊かな自然」

使用した意図 児童にとって身近な程久保川のカワセミについて学習した。事例集の自然愛護・動物愛護についての学習と地域を結び付けるために活用した。

夢が丘小学校の第4学年特別な教科道徳では、事例集から自然愛・動物愛護についての学習と地域を結び付けるという指導案を参考にし、身近な地域の程久保川にいるカワセミを取り上げ、授業を行いました。授業では、カワセミを見たことがあるが、日野市の鳥のカワセミが戦後川が汚くなった時にいなくなってしまったことを知りました。川をきれいにし、自然をさらに守りたいから、自分が自然を守るためにできることをオクリンクプラスを用いて班ごとに共有しました。児童からは「ゴミを減らすためにポイ捨てをしない。そのために普段から袋を持ち歩く。」「地域のゴミ拾いの活動に参加する。」「普段からゴミの分別やリサイクルを心掛ける。」といった意見がでました。

< 授業研究による検証結果 >

【事例集活用のメリット】
すでに出来上がっている指導案や資料を使う。

↓

質及び効率面で効果的な教材研究、資料提示が可能。
児童が**身近な地域に関心を持ち、主体的に学ぶ姿**が見られた。

【留意点】

- 指導案や提示資料を**地域や学校の実態に応じて加筆修正**する必要がある。

事例集を活用した検証結果です。メリットは、質及び効率面で効果的な教材研究、資料提示ができることです。すでに地域を研究し、教材化しているので、日野市に特化した地域資源を授業に有効活用することができました。児童が意欲的に取り組んだり、他地域と日野の事例を比較して、より理解を深めたりすることができました。留意点は、資料の加筆訂正です。過去の資料を用いるため、現在の学校や児童の実態に合ったものに作り変えていくとよい、と分かりました。

成果

- ①指導事例集の活用を推進するため、アンケートの実施・要望の実態を把握できた
⇒C4 t hでより簡便に活用できるように環境を整えられた。
- ②指導事例集を活用した授業実践による検証
児童が地域に関心をもち、主体的に学ぶ姿が見られた。

最後に、成果と課題についてお話しします。成果の1つ目は、昨年度作成したリーフレットや指導事例集の活用が進んでいるか全校対象に郷土教育に関するアンケートを作成したことです。またC4 t hを活用して、リーフレットと共有ドライブにリンクを貼り、日野市の教職員に向け広く周知する機会を作りました。2つ目は、指導事例集を授業作りに生かしたことです。昨年度に引き続き、過去の蓄積を実践に生かして検証しました。地域の特性や、学校の実態に即した授業計画を進めるための教材づくりの視点などヒントを得ることができました。

課題

- ①指導事例集の更なる活用促進
・各校の推進委員が継続して周知・情報発信すること
- ②指導事例集の蓄積方法について検討
・地域資源の情報共有
・推進委員の連携

課題の1つ目は、指導事例集の更なる活用促進です。検索方法をより一層分かりやすく簡単にする、毎年日野市に転入する教員にリーフレットを配付する、OJTの機会に活用するなど、機会を通して周知を進めていくことが必要だと考えます。2つ目は、指導案だけでなく、地域資源の情報を共有していくことや、推進委員を通じて様々な地域の情報を得やすくすることなど、実践例を増やし、教材を充実させ、指導事例集の内容を検討して蓄積を考えていくと、さらに使いやすい事例集になると考えます。

次年度は、地域学習に関わることの多い、中学年の先生方の意見を取り入れることも視野に入れながら改善を図っていきます。

以上で、Dグループの発表を終わります。

第4学年 特別の教科 道徳 指導案

令和6年11月19日(火) 5校時
日野市立日野第七小学校 第4学年3組
児童数 30名
授業者 山浦 真義

Dグループ研究テーマ

郷土を愛するひのっ子の育成を目指して
～指導事例集の効果的な活用による授業づくり～

教材名(指導領域)

「巽聖歌のうた」 故郷への思い (B領域 郷土愛)

参考指導案：2019(14)4年道徳「故郷の詩～巽聖歌～」(旭が丘小学校における実践より)

1 教材化の意図並びに教材の概要(参考指導案より抜粋)

『歩こう調べようふるさと七生』から巽聖歌のページを開くと、旭が丘に住んでいたことを知ることができる。記念碑がある旭が丘中央公園は旭が丘小学校の児童にとっての絶好の遊び場である。数々の名作を生みだしてきた巽聖歌を知り、身近に感じられるように教材化することにした。歴史上の人物をよく知る方法として、伝記を読むことが挙げられる。伝記はその人物が主人公として書かれているため感情移入をしやすい。そこで、巽聖歌を主人公とした伝記を作ることはできないかと考えた。巽聖歌の足跡が分かるようにすることを念頭に置きながら、巽聖歌を身近に感じられるようにすることを目指した。

資料として、郷土資料館の展示パネル、郷土資料館が発行している資料、巽聖歌の作品の載った書籍、平成29年の郷土教育推進研究報告書を調べた。巽聖歌が日野について言及した詩なり文章なりを探したが、日野に住んでの活動は、児童詩の作者としての確固たる地位を築き各地に出張していたようで、その各地で見たものを詩にしていることが多いようであった。平成29年度の郷土教育推進研究でも取り扱っていた詩、『雲雀の声は』で日野の情景が出ていて、春の畑や競馬場の様子を歌っている。『歩こう調べようふるさと七生』にも載っている『ぼくらの団地』では、その日野の様子が変わっていくことを歌っている。この辺りの時期を伝記にすることも考えたが、手元の資料だけでは日野での生活を描くことが難しかった。巽聖歌の詩を読むと、故郷日詰町への愛がとても強い。このことは、故郷への思いを学ぶことにつながるのではないかと考えた。特に若いころの詩は、その思いがまっすぐに読者に伝わるものが多い。そこで、聖歌が生まれてから東京に出るまでの伝記を作り、故郷への思いを考えるという教材を作ることにした。

2 グループ研究について

Dグループでは、郷土教育推進委員会の活用事例集の活用を前提とした授業の展開を行う。日野市では、これまで多くの郷土教育にかかわる教材開発が行われ、その指導案とともに蓄積がなされてきた。郷土教育推進委員会では、令和5年度までに過去17年分の郷土教育のデータをまとめGoogleドライブの「全校教職員共有」の中でデータベース化され、日野市立小・中学校の教員は、いつでも検索や閲覧が可能となっている。データベースは優れた実践を生かし、教材研究を深めることができるため、活用を推進していきたい。

本授業は2019年度旭が丘小学校4年生道徳「故郷の詩～巽聖歌～」の実践を現在の日野七小の実態に合わせて修正したものである。通常の授業研究は、授業内容やその指導法に焦点があてられる。本実践は授業を組み立てる過程そのものが研究、検証対象になっており、そこにこのDグループの研究の独自性と特殊性がある。

Dグループの研究は過去のデータベース化を踏まえて周知・活用を進めるためにパンフレットを作成し、郷土教育の推進を図った。過去の資料の効果的活用に向け、データベースをどのように用いたのか、その中でどのような点で使いやすさがあり、授業をより良いものにしたのかを明らかにしていく。

3 児童の実態

本校では、生活科・総合的な学習の時間において6年間の柱として地域とのつながりを掲げている。学区域内に新選組ふるさと資料館があり、2年生で見学をしたり、また、中央公園で行われる菊花コンテストに出品するために菊を育てたりという経験を積んできている。今年は地域の「人」とのつながりをテーマに総合的な学習の時間に取り組んでいるが、それとは別の切り口として今回の教材を生かしていきたい。昨年度の卒業生が作った校歌の3番・4番に関しては歌詞を覚えるほどに気に入っている児童が多く、今回のテーマからより地域へ目を向けられる心を育てていきたい。

4 指導の工夫

(1) 巽聖歌が主人公の物語を資料にする

・巽聖歌が主人公の三人称物語を資料にする。史実に基づきながら、当時聖歌が考えたと思われるところを、巽聖歌の言葉として表現した。

(2) 巽聖歌の詩を扱う

・故郷の情景が思い浮かんでくる詩をいくつか取り上げ、そこから巽聖歌の思いを想像する。

(3) 本校校歌の利用

・地域を思い卒業生が作った歌詞を見て、巽聖歌の故郷への思いを重ねながら想像する。

5 本時のねらい

○巽聖歌の故郷への愛を想像し、故郷を愛する気持ちについて考える。

○日野七小の校歌に込められた思いを想像し、郷土への思いをもつ。

6 本時の展開

発問／学習活動	☆指導上の注意 ○評価（評価方法）
<p>1 童謡「たき火」を聞き、作詞者巽聖歌について知る。→豊田駅発着メロディを聞く。 →日野市在住であること、日野四小の校歌の作詞をしていることを確認する。</p> <p>2 巽聖歌について知る。 →パワーポイントで画像を示しながら話を聞く。 『故郷を離れた横須賀で、巽聖歌が読んだ詩を見てみよう』</p> <p>3 巽聖歌の詠んだ詩を見て、気付いたことや感じたことを共有する。 →「お山の広っぱ」「母はとつと」「秋」「水口」の4本 →1本を選び、それについて考えを共有する ○風景が思い浮かぶ ○巽聖歌が子供のころ見た景色を詠んでいる ○お母さんとの思い出を大切にしている ○自然が残っているところで暮らしていた →日野四小の校歌の歌詞も見て、風景が描写されていることを確認する。</p> <p>4 自分なりのふるさとの風景を思い浮かべる。 『みんなの身近にも、ふるさとの風景を歌にした人たちがいます。』 →日野七小の校歌を聞く。 『みんなが巽聖歌や去年の6年生のようにふるさとの景色を詩にするとしたら、どこのことを詩にしたいですか』 ○桜がきれいな日野七小 ○鳥が鳴いている野鳥の森公園 ○子供たちが遊んでいる中央公園 ○水がきれいな黒川清流公園</p> <p>5 学習を振り返る。 学習を通して感じたことをノートに記入する</p>	<p>☆写真を中心に話すことで、内容を掘みやすくする。</p> <p>☆詩にはカラーの写真を合わせ、情景を浮かびやすくさせる。 ☆4つの詩を一つずつ示す。選ぶのが難しい児童には、風景のわかりやすい「お山の広っぱ」のみについて考えさせる。</p> <p>○巽聖歌の故郷への愛を想像し、故郷を愛する気持ちについて考えている。（ノート、発言）</p> <p>○自分なりの郷土への思いをもっている。（ノート、発言）</p>

授業参観における視点

- 学習活動や教材は、郷土への愛着を高めるためのものとして適切であったか。
- 指導事例集は、効果的に活用されていたか。
- 主体的・対話的で深い学びを実現することができていたか。

V 夏季研修会（ふるさと文化財課と連携）

ふるさと文化財課 金野啓史

令和6年度のフィールドワークでは、日野台地上の工場と多摩平団地を巡った。これを踏まえて、本稿では、日野台地の開発史を振り返ってみたい。

1 日野台地に工場ができた

(1) 昭和恐慌

明治時代から大正時代にかけての日野町は、多摩川と浅川の水利を活かした水田稲作と養蚕を主な生業として発展した。中でも養蚕は、明治政府の殖産振興政策のもと明治10年代から盛んになり、明治30年代になると農家の収入に占める養蚕の割合は35%にまで達した。当初は河川の沿岸に分布していた桑畑は台地上へ広がり、雑木林や畑が広がっていた日野台地は一面の桑畑になった。

そうした状況を一変させる出来事が、昭和5年に始まったいわゆる昭和恐慌だった。この恐慌では特に穀物と繭の下落が著しく、稲作と養蚕を経済の基盤としていた日野町は影響をまろに受け、生活困窮者が急増し町の財政は悪化した。これを打開すべく、日野町は耕地や養蚕などの改良資金の貸付事業や、土木事業を行って生活困窮者を雇用する救農土木事業などを実施した。このうち救農土木事業では、甲州街道の拡幅と新道の建設、川崎街道の道筋の変更、谷地川筋の河川工事などが行われた。

(2) 大工場の誘致

以上の事業に加えて日野町がとった起死回生の打開策が、大工場の誘致だった。当時は国策の上から、軍需品の増産と防空のため京浜地帯の工場の地方分散がはかられていた。日野町はそうした工場を、養蚕の衰退により価値を失った桑畑に誘致した。この結果、昭和11年から18年にかけて、吉田時計店（東洋時計。後のオリエン時計）、六桜社（現在のコニカミノルタ）、日野重工業（現在の日野自動車）、富士電機、神戸製鋼東京研究所（後の神鋼電機）のいわゆる「日野五社」が、相次いで日野町内に進出した。

大工場の誘致は、就労場所の確保や徴収収入の増加といった様々な効果を日野町にもたらし、町財政は一気に好転し、昭和15年には納税優良市町村として表彰されるまでになった。その一方で、急激な人口増加による校舎不足や、地価の高騰といった問題も生じた。

日野台地上に住宅が建ち始めたのはこの頃からで、工場は社宅や寮を建設した。例えば日野重工業は、日野台、豊田、万願荘に大規模な住宅を用意し、日野台や豊田では円形広場から放射状に街路が伸びた整然とした街並みが誕生した。また、農家などの副業としてアパートや貸家の経営が行われるようになった。



富士電機豊田工場の鍬入れ式（富士電機株所蔵）

(3) 工業都市の発展と首都圏整備計画

終戦により一時的な休業を余儀なくされた「日野五社」は、事業や組織を再編し新たなスタートを切った。以降日野町は東京復興のうねりの中で内陸の工業都市としての発展をみるようになった。

戦後復興に伴い東京の人口は急激に増加し、朝鮮戦争（昭和25年～28年）の時期には、特需景気を背景に毎年30万人以上のペースで人口が増え続けた。

これへの対応策として、東京の都市計画を国の直轄事業として行う首都建設法が昭和 25 年に制定され、昭和 31 年に首都圏整備法が成立。昭和 33 年にはその実施計画として第一次首都圏整備計画が決定された。この首都圏整備計画は、東京都心部の過大化、過密化を防ぐことを目的としたもので、①既存市街地（東京都心部と横浜・川崎・川口・武蔵野・三鷹）への人口と機能の集中を抑える。②既存市街地の周囲に近郊地帯（グリーンベルト）を設け、市街地の無秩序な拡大を防止する。③近郊地帯の周囲にいくつかの市街地開発区域（衛星都市）を設け、独立性の高い職住接近の都市として人口・産業を定着させ、既存市街地の人口と都市機能を分散させる、という内容だった。

また、既存市街地から分散させる都市機能は主に工業とされ、工場など一定の基盤がある地域を市街地開発地域に指定して開発を行うことになった。戦前からの大工場が立地する日野台地の一帯は、衛星都市を建設するうえでの要件を備えていたことから、昭和 33 年に、八王子・日野地区として、相模原・町田地区と共に、市街地開発地域に指定され「衛星都市第一号」として喧伝された。なお、これと時を同じくして、昭和 30 年に設立された日本住宅公団の昭和 30 年・31 年度事業として、豊田地区に多摩平団地が建設されることになった。

(4) 平山台工業団地

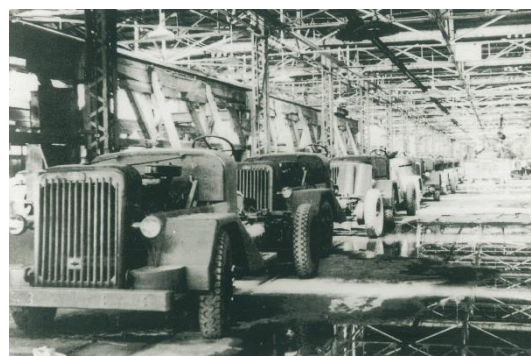
市街地開発地域の指定を受けた日野町は、昭和 33 年に「日野市工場誘致奨励に関する条例」と「日野市工場育成に関する条例」を制定し、その実践として平山台地区（旭が丘）の開発を計画し、昭和 38 年に着工した。事業は東京都と日野町など 6 市町の出資により設立された東京都新都市建設公社により進められ、昭和 48 年に竣工した。これと並行して市内には新たな企業が多数進出し、昭和 40 年までに、帝人中央研究所、東芝電機日野工場、千代田自動車工業、雪印乳業日野工場などが立地した。

(5) 宅地化の進展とこれから

ところで、昭和 33 年に決定された首都圏整備計画は、当初の計画とは大きく異なった形で進行し、衛星都市やグリーンベルトの構想は消滅している。開発を規制された近郊地帯で激しい反対運動に遭ったことや、この計画が決定した時点で既に東京のスプロール現象が起り、既存市街地の膨張を抑止できなかったことが、その理由として挙げられている。

日野市でも昭和 40 年前後から七生丘陵を中心に大規模な宅地開発が進むなど、急激な人口増加が見られた。工場誘致奨励と工場育成に関する条例は昭和 41 年(1966 年)に廃止され、以降は住環境の整備に力点を置いた施策が展開され、今日に至っている。

かつては人家がなく、甲州街道を行く人を狐や狸がたぶらかしたとされる日野台地の一帯は、養蚕の隆盛に伴い一面の桑畑に変わった。昭和恐慌を契機に大工場が進出すると、戦後はそれらの工場を基盤とした新たなまちづくりが展開された。多摩平団地の建て替えも進み、日野自動車が生産拠点を市外に移した今、日野台地は再びその姿を変えようとしている。日野台地の移り変わりは、この地での営みの在り方をそのままに写し出していると言えよう。



日野自動車の生産ライン(昭和 30 年頃 日野自動車所)

2 多摩平のフィールドワークと教材化 ～年表・地図の活用～

郷土教育推進研究委員会委員・顧問 小杉博司

(1) 研修のねらい(多摩平地区)

今年度のフィールドワーク・演習は、「多摩平の森」と「日野の大工場」である。ここでは、小杉が担当した「多摩平地区」について述べる。多摩平の森は、桑と雑木林の日野台地に、大正11年(1922)宮内省皇室管理局の御料地ができたことから始まる。戦後の昭和22年(1947)、林野庁の林業試験場となったが、この美しい森に感動したカナダのストーン牧師が、この土地を購入し「中央農村教化研究所」(のちの農村伝道学校)を設立した。昭和31年(1956)から、豊田地区土地区画整理事業が始まり、日本住宅公団による多摩平団地の建設が始まった。多摩平団地は、日野初の大規模団地で、日野の開発・発展と市民の生活様式に大きな影響・変化を及ぼした。しかし、40年の歳月を経て老朽化も進み、平成9年(1997)から建替の調査・検討が始まった。新しい団地は、「多摩平の森」と命名され、平成12年から工事が始まった。この建替事業は、豊田駅周辺を含めた街づくりの中で進められ、今も進行中である。「緑の継承と育成」を中心とした「まちづくり」は、住民・日野市・UR都市再生機構参加の「三者勉強会」で徹底的に話し合い、調査・検討を重ね進化した。平成14年(2002)から「多摩平の森」の入居が始まった。以上の努力・成果が認められ、次の賞を受賞した。①平成14年(2002) 環境大臣賞 ②平成17年(2005) 第25回緑の都市賞 リブコム国際コンクール銀賞である。

日野五小が立地する日野台地は、工場の進出・閉鎖、大規模団地の建設・建替等、激動の時代を経て、新しい時代を迎えようとしている。研修会では、先人の新しい「まちづくり」にかける「想い」や「願い」を継承しながら、新しい時代を創造しようと努力する日野人の姿を学んだ。日野五小・日野六小・日野三小は、まちの発展・変化と共に歩み、学校の歴史を創ってきた。研修会の意義は、まちの発展・変化をたどり、日野人のまちづくりにたいする「想い」や「願い」を理解し、今後の日野について考えることにある。研修会で学んだ教材化の視点や方法を自校の授業づくりに生かし、子供達の郷土意識を高めたい。

(2) 多摩平(多摩平の森)フィールドワークのコース

- ① 日野五小出発
- ② 御料の森公園 (御料の森とは宮内省皇室林野局の御料地である。)
- ③ 多摩平の森 (ストーン石・ストーン牧師の紙芝居を見て、キリスト教会農場について知る)
- ④ ユリノキの大木 (けやき通り集会所前に太さ日本3位のユリノキがある。なぜここに)
- ⑤ 日野台教会、日野台幼稚園 (教会の前のユリノキ通りで研究所の開所式が行われた。)
- ⑥ 日野二中、多摩平第二緑地 (日野二中が御料林に沿ってできた。)
- ⑦ 多摩平第一公園、かどで像(狩人の像) (多摩平団地から多摩平の森へ)

今回の研修会では見学できなかったが、下記の施設・公園は、是非訪ねたい。「まちづくり」を考えるうえで必須である。

- ① 多摩平の森ふれあい館 (多摩平図書館) (子供達の願いも実現した)
- ② 黒川清流公園 (多摩平第一緑地、カワセミ館) (黒川清流公園と一体化したまちづくり)
- ③ 多摩平団地を残した「住棟ルネッサンス事業」区域 (高齢者・社会教育施設等のエリア)

(3) 昭和の地形図や市販の都市地図を読む

フィールドワークの理解を深め、疑問を持つ(課題を発見する)ためには、地図の読み取りが重要である。柏書房刊行の昭和 15 年(戦前)測量の地形図が有効である。都市地図は、人文社発行の昭和 40 年測量図が、古い地名(小字名)や施設の位置がわかり役に立つ。二つの地図を比較すると、土地利用やまちの変化が一目瞭然である。

(4) ねらいに沿った年表を作成する

地域の年表は、課題を追究したり、解決するために有効である。子供達が資料を選択したり活用したりできるよう、単元や本時のねらい(目標)にそって、わかりやすい表現・項目の精選を行う。下記に研修会用に作成した年表を掲載する。

日野五小「多摩平の昔」年表

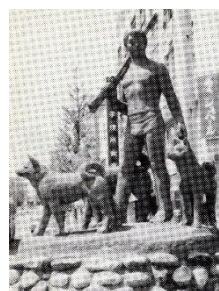
(郷土教育夏季研修会資料 小杉作成)

- 明治 34 年(1901) 甲武鉄道(中央本線)豊田駅ができた 改札口は南口のみ
- 明治 34 年(1901) 桑田村と日野町が合併して(新)日野町となった
- 大正 11 年(1922) 宮内省帝室林野管理局の御料地(御料林)ができた
- 昭和 9 年(1934) 日本篩絹(日清精工、NBC)ができた
- 昭和 9 年(1934) 多摩八王子競馬場ができた
- 昭和 11 年(1936) 吉田時計店日野工場(東洋時計、オリエント時計)ができた
- 昭和 12 年(1937) 羽田ヒューム管日野工場ができた
- 昭和 12 年(1937) 六桜社日野分工場(小西六、コニカミノルタ)ができた
- 昭和 13 年(1938) 藤野缶詰工場(戦後はパン工場)ができた
- 昭和 16 年(1941) 東京自動車工業日野製造所(日野重工業、日野自動車)ができた
- 昭和 18 年(1943) 富士電機製造豊田工場(富士電機)ができた
- 昭和 18 年(1943) 神戸製鋼所東京研究所(神鋼電機)ができた
- 昭和 22 年(1947) 宮内省帝室の御料林が林野庁林業試験場にかわった
- 昭和 23 年(1948) カナダ教会が購入し中央農村教化研究所ができた(ストーン牧師所長)
- 昭和 29 年(1954) 日野町立日野第二中学校が開校した
- 昭和 29 年(1954) 青函連絡船「洞爺丸」台風で沈没 ストーン牧師亡くなる
- 昭和 33 年(1958) 豊田駅北口ができる(?) 多摩平名店街ができる
- 昭和 33 年(1958) 多摩平団地ができた(入居開始、完了は 35 年 2792 戸)
- 昭和 33 年(1958) 日野町と七生村が合併して(新)日野町となった
- 昭和 34 年(1959) 日野町立日野第五小学校が開校した(日野二小・日野三小校舍借用)
- 昭和 35 年(1960) 平山台工業団地の工事がはじまった 帝人東京研究センターできた
- 昭和 35 年(1960) 豊田駅北口に「かどで」像(狩人の像)ができる(多摩平団地竣工記念)
- 昭和 36 年(1961) 日野町立国民健康保険病院(日野市立病院)ができた
- 昭和 38 年(1963) 日野町が日野市になった
- 昭和 39 年(1964) 日野市立日野第五小学校芝山分校を設置した
- 昭和 40 年(1965) 日野市立日野第六小学校が開校した
- 昭和 40 年(1965) 日野市立図書館が移動図書館「ひまわり号」として始まった
- 昭和 41 年(1966) 都電の廃車を利用して多摩平児童図書館ができた
- 平成 9 年(1997) 多摩平団地「三者建替勉強会」が始まる(完成まで 100 回以上)
- 平成 12 年(2000) 多摩平団地が「多摩平の森」へ建替工事が始まった
- 平成 14 年(2002) 新しい日野市立病院が現在地に移った
- 平成 14 年(2002) 「かどで」像(狩人の像)、多摩平第一公園に移す(駅前ロータリー工事)
- 平成 16 年(2004) 多摩平図書館新館開館(多摩平図書館と多摩平児童図書館の統合)

※教材として活用する年表は、子供が、単元・本時のねらい(目標)を達成できるよう、内容を精選し、わかりやすい表現で作成する。この年表から、①多摩平発展の歴史(日野台を含む)②日野五小・日野六小・日野三小・日野二中の学校の歴史、③多摩平地区の市立図書館の歴史、④「かどで」像(狩人の像)と多摩平団地・多摩平の森の歴史を調べることができる。さらに、下記の多摩平地区の時代区分ができる。

「緑の継承と育成」のまちづくり～御料林から多摩平の森へ～(多摩平の歴史時代区分)

- ① 桑田村時代 (明治 22～34 年)
日野台地は桑畑の記号()ばかり。豊田駅は、桑田村にできた。
- ② 宮内省帝室林野局御料地(御料林)時代 (大正 11 年～昭和 22 年)
桑畑の記号()を緑色で塗ってみると、空白の場所ができる。そこが御料林。(5)―①
- ③ ストーン牧師のキリスト教会(農村伝道神学校)農場時代 (昭和 23 年～32 年)
都市地図をみると、団地の中に教会と幼稚園がある。
- ① 日本住宅公団「多摩平団地」時代 (昭和 33 年～平成 12 年)
豊田駅北口に「かどで」像(狩人の像)ができた。
- ② UR 都市機構「多摩平の森」時代 (平成 12 年～現在)
「かどで」像(狩人の像)が、多摩平第一公園に移った



※右の写真は、豊田駅北口に設置された「かどで」像 多摩平自治会 20 年史 1980 より

「昭和 33 年(1958)」は、日野町飛躍の年

昭和 33 年は、多摩平団地の入居が始まり、人口が急増した。団地には、風呂・水洗トイレ・ステンレスの流しが完備され、食事の仕方が、ちゃぶ台から机・椅子のスタイルに変わり、あこがれの「文化生活」となった。市民の生活様式が大きく変化し、都心への通勤が急増した。日野五小・日野六小は、まさに多摩平団地と共に歩んだと言える。多摩動物公園が開園し、日野町は七生村と合併した。これが、昭和 38 年の日野市制につながる。昭和 33 年(1958)は、日野市にとって忘れてはならない重要な飛躍の年である。

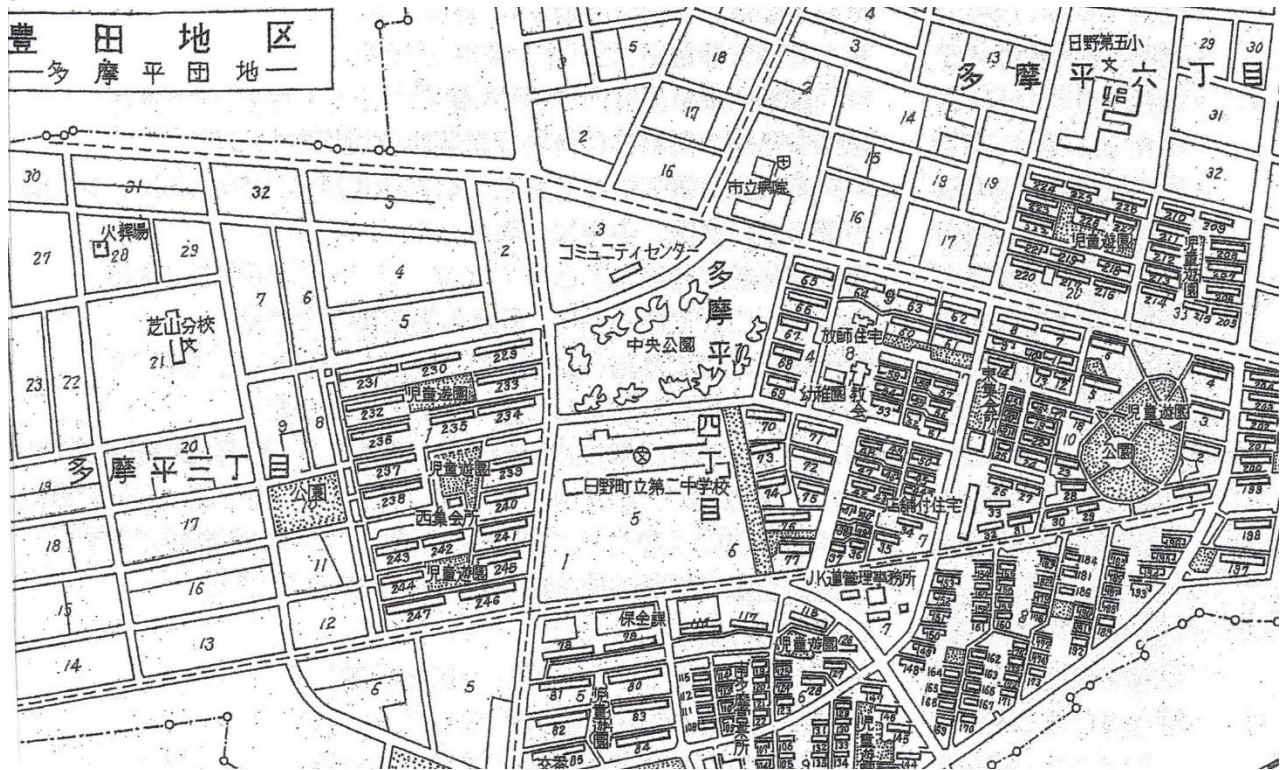
(5) 地図や航空写真からまちの変化、土地利用の変化を読み取る。

- ①昭和 15 年(1940)3 月測量の地形図「豊田」柏書房 1983 年刊行
『明治・大正・昭和 東京一万分一 地形図集成』②昭和 22 年(1947)7 月 24 日 米軍撮影



①の地形図は日野台地で、一面の桑畑が広がっている。中央部のみ針葉・広葉樹林帯があり、宮内省帝室林野局御料地であることがわかる。②の米軍撮影の空中写真は、①の地図の針葉・広葉樹林帯と輪郭が一致する。昭和 22 年(1947)は、御料地の管理が林野庁林業試験場に移行した年であり、翌昭和 23 年(1948)は、日本キリスト教会が購入し、ストーン牧師の中央農村教化研究所ができた。この御料地の森や道路の区画が、多摩平団地、多摩平の森へと引き継がれていく。「緑の継承と育成」「品格のあるまちづくり」が実現された。

③ 昭和 40 年 5 月発行 人文社「日野町全図」



この昭和 40 年発行の地図から、多摩平団地が御料林時代の森や区画が生かされていることがわかる。現在の多摩平の森の地図も同様である。人口増に伴い、小中学校が建設され、市立病院の位置も変わった。商店街や公園の位置も変わったが、ゆりの木通り、ケヤキ通り、東西通り、多摩平緑地通り、多摩平自然公園、多摩平第一・第二緑地等の樹林は、「緑の回廊」として、そのまま継承されている。新旧の団地の地図から変化の有無を読み取り(課題把握)、追究することができる。

(6) 多摩平団地から多摩平の森へ ～三者勉強会と日野人の想い・願い～

多摩平団地建替え事業は、黒川清流公園等自然環境と一体化した豊田駅周辺のまちづくりであった。この建て替えをリードしたのが、住民・都市機構(公団)・日野市の「三者研究会」である。三者の想いや願いを実現していった「三者勉強会」は、100 回以上開催され、今後の街づくりの手本となった。「緑の継承と育成」が事業の重要なテーマとなり、「多摩平団地自然公園(現多摩平の森)」の樹林を最優先し、御料林・巨木・思い出の木等を 1 本 1 本調査し、「多摩平の森」が完成した。御料林以来の「ユリノキ」「モミの木」には、日野人の「想い」「願い」が込められている。新しい「まちづくり」に挑戦していった日野人の工夫・苦勞・創造力に学び、「ひのっ子」に伝え、日野を愛する「日野人」を育てたい。

(7) 参考文献

- ① 「郷土日野」指導事例 第 5・6 集 日野市立教育センター 平成 22・23 年
- ② 「郷土日野」指導事例 第 8・10 集 日野市立教育センター 平成 25・27 年
- ③ 「日野市旧桑田村の地名」日野の昭和史を綴る会 平成 24 年(2012)
- ④ 「日野台教会五十年のあゆみ」日本基督教団日野台教会 平成 12 年(2000)
- ⑤ 「開校 50 周年記念誌」日野第五小学校 平成 21 年(2009)
- ⑥ 「創立 50 周年記念誌 しばやま」日野第六小学校 平成 27 年(2015)
- ⑦ 「街と時と人を緑で結ぶ 緑の継承と育成」住宅・都市整備公団東京支社 平成 11 年
- ⑧ 建て替え三者勉強会・第百回記念 多摩平団地での取り組み 平成 19 年(2007)

3 日野市に所在する塚

ふるさと文化財課 大塚 美紀

●日野台地には、かつて大小さまざまな塚があったと伝わっています。現存していませんが昭和30年代までは、甲州街道を挟んで両側に対になるように築かれていた一里塚もありました。本稿では現存する三つの塚を紹介します。

(1) 上人塚

日野自動車構内（日野台3-1-1）に所在し、日野市指定史跡・遺跡となっている。

永祿年間（1558～1570年）に美濃国より日野に移り住んで日野用水を開削するなどした佐藤隼人の業績をたたえるためにこの塚を造り、その功績を記した文書を塚の内部に埋めたとする話や、塚の周辺で狐や狸が上人に化けて道行く人々をたぶらかしたために、この塚を「上人塚」と表記するようになったという話が伝承として伝わっている。

平成19年（2007年）9月～12月にかけて発掘調査が行われ、その結果黒色土を突き固めた下部の塚とそれを覆う層から構成された塚であることがわかった。埋納物は発見されなかったが、15世紀代の磁器片の出土により塚の築造は16世紀初頭であると考えられる。築造の目的としては、領地を示す目印（境塚）として造られたこと、佐藤隼人の業績をたたえるため（「挨拶目録」の記述に基づく）の2つが考えられる。また、規模・質からして強大な権力の関与が予想される。かつて塚の傍らには、神社があり榎の老木が茂っていた。現在神社は移設されている。

(2) まつり塚

富士電機東京工場構内（富士町1）に所在し、日野市有形民俗文化財に指定されている。

塚は旧稲城往還沿いにあり、この場所は旧平山村と豊田村の村境にあたる。塚には松が植えられ、その根本には土台が築かれ周囲には数基の石仏が祀られていた。疫病などが流行った際には松の間に注連縄を張り、道切りを行って外界から悪霊などの侵入を防いでいた。道切りとは、災いが村に入らないようにするために、村外から村内に通じる村境の道に注連縄を張ったり大草鞋を掛けたりして象徴的に道を切る習俗を指す。村の中の疫病神などもここまで送ってきて放していたためまつり塚と呼ばれていたが、このような村境の風習もなくなった現在は土台も石仏も失われた。まつり塚は、疫病や災厄は村の外からやって来る、という往時の世界観を伺い知ることができる点で重要な文化財であるといえる。

(3) 富士塚

コニカミノルタ東京サイト日野構内（さくら町1-1）に所在する。

築造の目的については富士信仰との関係も考えられるが、上人塚と同様に黒色土で築かれていることや、近世の富士塚に特徴的な黒色溶岩などの痕跡すら見られないことから、築造に富士講が関わった可能性は低い。一般的に「富士塚」とは、江戸時代に、主に富士講（富士山を信仰する庶民が作った組織）が富士山に登ることができない人々のために、人工的に作った富士山のことをいう。富士塚に登ることにより「富士詣」を果たしたことにする目的で各地に築かれた。


ただ、この富士塚は日野市「旧公図」明治初期地籍図のなかに旧字「富士塚」地内の山林中に平面円形の塚として確認できることから、16世紀半ば以前にはすでに存在した可能性が高い。永祿10年の「高幡高麗一族・屋敷等絵図」には「富士塚」「ひのさかの台より富士つかのきわまで前代あらいかたに候」と記されている。この当時、このあたりには原野が広がっており、この塚は台地上のランドマークとなるとともに、富士山を眺望することもできたと思われる。

VI 1 課 2 館との連携

1課2館との連携

ふるさと文化財課 図書館 中央公民館

- 毎回の委員会にメンバーとして参加
- 授業づくりのための情報や資料提供
- 夏季研修会への協力



フィールドワークの案内 フィールドワークの振り返り

1 課 2 館との連携について御紹介します。1 課 2 館とは、ふるさと文化財課、図書館、中央公民館のことです。

毎回の委員会に委員として参加し、授業づくりのための情報及び資料を提供していただきました。夏季研修会では、ふるさと文化財課の課長さんと学芸員さんが、事前に参考資料の提供やフィールドワークでの案内、午後の研修会にもグループ研究で助言をいただきました。専門的視野の助言は、日野の歴史に対する教員の理解が深まり、「子供たちへの授業につなげたい。」との思いが高まりました。

学校との連携 ふるさと日野を伝える資料や情報の提供

市販の図書やネットの検索では地域の情報が見つからない。


ふるさと文化財課が協力します！

学校周辺地域についての資料や情報を選択して提供

- ・ 学区域で見られる史跡（石仏や石碑など）
- ・ 社寺などに伝わる文化財
- ・ 地域にある古い道や用水 など

郷土に関する授業、教材研究に役立ちます。

子どもたちが見かける風景の中に、地域の歴史を物語るものがあります。地域調べの際には、ふるさと文化財課（郷土資料館・新選組のふるさと歴史館）にご相談ください。



歴史マップ、石仏・石碑の資料

ふるさと文化財課では、郷土資料館・新選組のふるさと歴史館の特色を生かした、小中学校教育との連携協力を行っています。滝合小学校での研究授業準備にあたり、滝合小学校地域の古い道や建物、神社、文化財、石仏などの情報提供を行いました。一般に販売されている図書や、ネットでの検索では学校周辺の情報を見つけるのが難しいことがあります。郷土資料館や新選組のふるさと歴史館を運営しているふるさと文化財課は、地域情報を沢山収集していますので、学校の地域調べや郷土を扱う授業に適した資料を選択して先生方に提供することができます。

夏季研修会では、コニカミノルタ、日野自動車等を見学



コニカミノルタ内の富士塚と構内の景

日野自動車内の上人塚と構内神社

多摩平第一公園内のかどで景

多摩平団地の竣工記念として昭和35年(1960)に墨田駅北口に設置。平成14年(2004)に多摩平第一公園に移設。

夏季研修会では、日野第五小学校から多摩平第一公園を歩き、かどで像を経てコニカミノルタの富士塚と構内を巡見し、途中日野台一里塚を経て、日野自動車内の上人塚と神社を見学して午後の研修となりました。

①コニカミノルタ構内の富士塚は16世紀半ばの永禄10年以前に築造された中世の円形の塚です。現在は地表から約4mの高さで東西両側に削られている長方形で残っています。また、構内には災害時に日野市立病院に飲料水と透析用の水を供給する防災水資源として地下150mから汲み上げる救いの泉があります。

②日野自動車構内の上人塚は16世紀初頭に築造された方形の塚です。現塚は黒色土の旧塚の上に土盛りした新塚、さらに施設拡充の際の土が盛られて形成されています。また、上人塚にあった神社が構内に移設されて祭られています。

1 課 2 館の連携 平山陸稲栽培（ふるさと文化財課・中央公民館）

1 平山陸稲栽培



平山陸稲は明治の終わりに、平山村の林丈太郎という篤農家が発見し、畑の稲として日本全国に広がった陸稲です。日野生まれの平山陸稲を郷土資料館の協力も得てわかば教室の子供たちが陸稲づくりに取り組みました。子供たちが6月にコンテナボックスに田植えをしました。水やりや案山子作りなどを通して大切に育て、出てきた稲穂は、平山陸稲の特徴である、紫色の長い芒をもっていました。9月に稲刈りをし、11月に脱穀体験をしました。今年は夏の高温と鳥の害があり収量は昨年より少なくなりました。子供たちは進んで働き精米をして試食しました。

子供たちは学習を振り返り、「あまり体験できないことができて良かった。」「楽しかった。」「米粒になるまで多くの過程があったのだと思った。」と初めての陸稲栽培体験の感想を書いていました。

【陸稲栽培暦】

作業、活動等	内 容	R6年度	備 考
種の選別	真水に浸けて沈んだ種を選ぶ	5月10日	
浸種	10~15℃の真水に浸ける	5月10日	
苗床準備	浅いコンテナボックスに極小赤玉土、水	5月10日	N8P8K8 肥料入
播種	苗床に均一にばらまく	5月10日	1週間程度で発芽
水やり	水が減ってきたらつぎ足す		汲み置き温めた水
田植え準備	深いコンテナボックスに黒土7分目、水	6月10日	肥料を混ぜ代掻き
田植え	苗2~3本を束にし、ボックスに25か所	6月12日	鉛筆持ちで深植え
高温による水不足	猛暑による水枯れと白くなる白化現象	7月19日	水遣り、病虫害監視
追肥	コンテナボックスの土の上にはばらまく	8月8日	8月16日に出穂
支え作り	稲が倒れぬよう四隅に支柱、横棒を渡す	8月27日	
網掛け	鳥害防止のため全体に網で覆う	8月27日	鳥の侵入防止の為
案山子の設置	わかば教室の子供たちが作り設置	9月13日	鳥の害防止の為
水切り	水やりを止め、米を熟成させる	9月22日	
稲架（はさ）の準備	干すための横棒、鳥よけのネット設置	9月下旬	水濡れ防止カバー
稲刈り	刈り取って束にし、稲架にかけ干す	9月25日	ノコギリ鎌
脱穀、粳摺り、精米	千歯こぎ、脱穀機、唐箕、粳摺り精米機で	11月7日	農具は郷土資料館
試食	家庭科室で炊飯して試食	12月10日	子供たちの感想



田植え



田植えから5週間



稲刈り前の平山陸稲

1 課 2 館の連携 図書館 「ひの電子図書館がスタート」

2 図書館の活動

市政図書室 高橋寿恵

(1) はじめに

日野市立図書館は、令和 6（2024）年 7 月 2 日（火）より、電子図書館サービス「ひの電子図書館」を開始した。場所や時間にとらわれない来館不要のサービスで、開始以来半年で約 7 万回の閲覧があった。また、9 月には、市内小・中学校の児童・生徒・先生方へ専用 ID を配布し、読書や授業に活用されている。

(2) 利用方法

- 貸出点数 ID ひとつにつき 2 点まで
- 貸出期間 2 週間（貸出の翌日からカウント）
- 予約約点数・取り置き期間 ID ひとつにつき 2 点まで、7 日間取り置きする。
- 使い方 「借りる」ボタンを押すと、資料を借りることができ、「返す」ボタンで返却できる。また、貸出期間が過ぎると、自動的に返却される。



(3) 活用方法紹介

① 調べ学習

「ひの電子図書館」には、同時アクセス数に制限のない資料（読み放題）資料があり、児童・生徒が学校用 ID でログインし、クラスみんなで同じ本を読むこともできる。職業研究に役立つ本、環境問題を扱った本、図鑑、昔話や名作絵本もそろえている。

また、日野市に関する資料もあり、一例として『歩こう 調べよう ふるさと七生（第 3 版）』（日野市教育委員会 2021.3）などがある。児童・生徒はもちろん、先生方の調べものや、郷土教育にも活用できる。

② 朝読書

「ひの電子図書館」には、市内小中学校にお願いした読書調査で人気があった本が、多数ある。人気の『いえのおばけずかん』や「講談社青い鳥文庫」もそろえている。また、「読み放題コーナー」の本は、読みたいけれど貸出中で読めない、ということもない。

(4) 利用状況

令和 6（2024）年 9 月 11 日～令和 7（2025）年 1 月 14 日の期間で、各小中学校 ID での総ログイン者数は 4,832 人、ログイン回数は 18,467 回だった。

よく読まれている本は、小学校では図鑑やかわいいおはなしの本、中学校では講談社青い鳥文庫や角川つばさ文庫といった読み物、雑誌だった。図書館見学で来館した児童に、「ひの電子図書館」の紹介をしたところ、「知っている」「使っている」という声上がり、「たくさん本があって楽しい」という声もいただいた。図書館では引き続き、コンテンツの充実を図っていくので、ぜひご活用いただきたい。



ひのでんしとじょかん 🔍

【URL】 <https://web.d-library.jp/hino/>

Ⅶ 研究の成果と今後の課題

成果 研究の成果と今後の課題

- 身近な郷土教材を扱うことで、地域の良さに気付き、地域の取組や課題を考えることにより、関心や愛着を子供たちに育てる授業を開発工夫できた。
- 指導事例集のデータベースを活用することで、教材開発や指導案作成が効率よくでき更に授業の工夫改善ができた。
- 日野の特色を生かした教材開発で委員自身の学びが深まった。
- 1課2館の情報や助言が研究を深めることにつながった。

課題

- 郷土教育が目指す授業の指導方法と学習活動計画の工夫改善のための研究をする。
- 社会、総合的な学習の時間、各教科で郷土教育に取り組めるように、郷土教材を開発作成する。
- 指導事例集のデータベースを更に活用する研究をする。

研究の成果と課題について述べます。

成果としては、地域に支えられた身近な郷土教材を扱うことで地域の良さに気付き、地域の取組や課題を考えることで関心や愛着を育てる授業を開発工夫できました。

また、指導事例集のデータベースを活用することで、教材開発や指導案が効率よくできさらに授業の工夫改善ができました。

郷土教育推進研究やフィールドワークを通して、日野市の地域と郷土の歴史の理解を深めることができ、教材開発力等委員自身の学びが深まりました。

さらに、1課2館の情報や助言が研究を推進することにつながりました。

今後の課題としては、実践をさらに重ねていけるように、郷土教育が目指す授業に向けての更なる指導方法と指導計画のための研究をする。

社会、総合的な学習の時間、各教科で郷土教育に取り組めるように、郷土教材を開発作成する。

指導事例集のデータベースを更に活用する研究をすることが挙げられます。

VIII 個人研究

所属（豊田小学校）授業者（永吉 智洋）（A）グループ

学年 5 年	教科 社会	単元名 未来をささえる食料生産
学習テーマ 日野と食	使用教材資料	
<p>具体的な取り組み内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合的な学習の時間における「米作り体験」などに関連付けながら、日本の米作りについて学習した。 ・日本における農業について、3年次の日野市の学習を想起させ既習事項と関連付けながら、学びをすすめた。 <p>考察</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の産業（農業）の理解を深める上で、既習事項や郷土の実態を関連付けて学ぶことは有用ではないか。 ・給食における食材等を活用することで、日野と食の理解を深める学びにつながる。 		

所属（日野第三小学校）授業者（川口 翼）（A）グループ

学年 3年	教科 総合的な学習の時間	単元名 「梨博士になろう」
学習テーマ 日野の食、日野の農業	使用教材資料 わたしたちの日野	
<p>具体的な取り組み内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日野市の梨農家の方の梨園へ行き、梨ができるまでの過程や育てる上での苦労や思いを聞いた。 ・見学したことや体験したことを振り返り、興味が高まったことを調べてまとめた。 ・給食や学級活動の時間に、多摩川梨や東光寺大根が給食の献立に使われていることを紹介した。 <p>考察</p> <ul style="list-style-type: none"> ・梨園を見学したり、東光寺大根の種まき、草とりなどの農作業を体験したりしたことで食を大切にすることが高まった。 ・学校の給食で使われている食材に興味が高まった。 ・農家の方から聞いてことや自分たちで調べたことを発表する機会をもたせていく。 		

所属（日野第六小学校）授業者（高橋 優太）（A）グループ

学年 5年生	教科 社会	単元名 未来を支える食料生産
学習テーマ これからの食料生産	使用教材資料 小学校社会5年	
<p>具体的な取り組み内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合的な学習の時間における「米作り体験」と関連付けながら、日本の米作りについて学習した。 ・日本で生産されている食料と日野市で生産されている食料を比較し、これからも今までと同じように食料が生産されるかを話し合った。 <p>考察</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の産業（農業）の理解を深める上で、既習事項や郷土の実態を関連付けて学ぶと学習がより深まると感じた。 ・給食における日野産の食材を提示することで、日野と食の理解を深める学びにつながった。 		

所属（旭が丘小学校）授業者（浅野 佑弥）（A）グループ

学年 4 年	教科 道徳	単元名 ぼくたち、わたしたちの町
学習テーマ 郷土愛		使用教材資料 故郷の詩～巽聖歌～
<p>具体的な取り組み内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巽聖歌と旭が丘の関係について知る。豊田駅の発着メロデーや旭が丘中央公園の歌碑、たきび祭 ・本校の教員が作成した伝記「故郷の詩～巽聖歌～」を読み、聖歌の詩から故郷を思う気持ちを想像し、日野市や旭が丘のよさについて考える。 <p>考察</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巽聖歌と自分たちの町のつながりを改めて理解できたとともに、日野市や旭が丘のよさについて、自分ごととして考えることができた。・巽聖歌ゆかりの町にある小学校にもかかわらず、巽聖歌の詩集や資料が1冊もなかったため、資料の充実を図る必要がある。 		

所属（日野第五小学校）授業者（明吉 貴子）（A）グループ

学年 3年	教科総合的な学習の時間	単元名見たい！知りたい！やってみたい！めざせマスター
学習テーマ 日野の魅力の発見と発信		使用教材資料
<p>具体的な取り組み内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「東京産農産物の学校給食活用促進事業PR動画」を見て、なぜ日野市が取り上げられたのか疑問をもつ。 ・農産物が自分たちのもとに届き、食べられるようになるまでにどのような過程があり、どんな人が関わっているか考える。 ・豆腐屋さんや農家の方、栄養士からのお話や資料、インターネットで調査し、情報を整理する。（アポイントメントは代表児童が電話でとる） ・体験したことや調べて分かった情報を整理・分析する。 ・体験したことや調べて分かったことを報告し合い、まとめる。 ・これまでに集めた日野の農産物についての情報（栄養士、農家、豆腐屋さんの話等）をもとに日野市の農産物のためにどんなことをしたいか考え、計画を立てる。 ・2学期中にしたいこと、3学期にしたいことの計画を立てる。 <p>考察</p> <p>学習を通して自分たちの暮らす地域で作られる農産物に興味をもち、魅力に気付くことができた児童が多く、さらに地域の人や周りの人に伝えたいなど、意欲的に次の活動を行う様子が見られた。</p>		

所属（滝合小学校）授業者（富田 有作）（B）グループ

学年 5 年	教科 総合的な学習の時間	単元名 つなげる！つながる！日本文化！！
学習テーマ 日野市の伝統文化		使用教材資料 滝合小界隈の地図と写真
<p>具体的な取り組み内容</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 日本の伝統文化について学ぶことを知り、課題作りをする。 ② 日本には、世代を超えて受け継がれている様々な伝統文化があることを知る。 ③ 書道や和楽器の体験活動を通し、より詳しく知りたいこと、それをどのような方法で解決していくかについて検討し、課題追究の学習の仕方を知る。 ④ 日本の中の、平山地区の中の滝合小地域界隈にも、長い期間、受け継がれているものは、あるのだろうか。という問いかけをして、身近な地域にも視野を広げる。 ⑤ 平山地区滝合小界隈にも、地域の人に受け継がれてきた建物や行事があることを知る。 <p>考察</p> <p>・自分の住んでいる地域にも、長い間、地域の人たちによって、受け継がれてきた、施設やそこに収められている物があることを知った。・今まで、参加していた地域の行事には、地域の人たちの願いが込められていることを知った。・より一層、地域のことに興味をもとうとする意欲を高めることができた。</p>		

所属（日野第一小学校）授業者（白石 誠）（B）グループ

学年 5 年	教科 総合的な学習の時間	単元名 SDGsってなんだろう
学習テーマ 日野の魅力の発見と発信	使用教材資料 「日本ユニセフ協会」「外務省」「日野市」ホームページ 他	
<p>【単元の構成】</p> <p>①SDGsってなんだろう②身近なSDGsについて調べよう～日野市のSDGs③自分たちができるSDGsを考えよう</p> <p>具体的な取り組み内容</p> <p>日野第一小学校の5年では、総合的な学習の時間で、持続可能な社会を目指すSDGsの取組を学習した。その一環として、日野市のSDGsの取組を調べる活動を行った。児童は、日野市は自然が豊かであり、歴史的なものも多く、その魅力を伝え残そうとする取組をこれまでに学んできた。日野市が未来を見据えて行っている活動を調べることで、日野の魅力を再発見し、日野市の未来について考え、郷土を愛する心情を高めることができた。日野市のSDGsを調べると、『日野市地球温暖化対策実行計画』に基づいて、温室効果ガスの排出をゼロにすることをめざす「カーボンニュートラル」の取組の他、「フードパントリー」などの経済支援、育児支援や就職支援、ゴミの削減のための諸活動など、日野の未来のための様々な取組と共に、取り組む人々の工夫や努力に気付くことができた。3学期は、日野のために自分たちに何ができるかを話し合った。「環境のために、ゴミの分別を呼びかけよう」「フードロスを減らそう」「ポスターを作ってSDGsの取組の大切さを伝えよう」など、自分たちにできることを考えることができた。</p> <p>考察</p> <p>学習を通して、児童は自分たちの暮らす地域でも、未来のための取組が多くあることを知り、地域のよさを大事にしたいという思いをもつことができた。地域のために自分たちにできることを考え、実行したことで、地域社会の一員としての自覚も芽生えたのではないと考える。地域のためにできることを話し合い、活動を充実させるために、早い段階から話し合いを始めている必要があると感じ、学年で話し合っカリキュラムの見直しを行った。</p>		

所属（平山小学校）授業者（夏苺 桃佳）（B）グループ

学年 4年	教科 総合的な学習の時間	単元名 平山陸稲を育てよう
学習テーマ 陸稲		使用教材資料 なし
<p>具体的な取り組み内容</p> <p>平山小学校では、総合的な学習の時間に地域農家の方から様々なことを教えていただきながら平山陸稲を育てる農業体験に取り組んだ。平山地域で守り育ててきた伝統的なお米であることを知ること、「来年の4年生に繋げたい」「平山陸稲を守るために私たちにできることはないか」と自ら課題意識をもち、調べ学習をすすめたり友達と意見交換をして発表したり、主体的に農業体験に取り組む子供たちの姿が見られた。また地域農家の方々と一緒に活動を進めていくことで、農家の方の生産者としての思いや願いにも気付くことができた。</p> <p>考察</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域農家の方々からお話を聞くことで、「平山陸稲を守り育てていきたい」という気持ちを持ちながら農業体験に取り組むことができた。 ・毎回の農業体験後に観察カードを書くことで、平山陸稲に関する知識がより深まるとともに、学びを定着することができた。 		

所属（南平小学校）授業者（寶田 亮）（B）グループ

学年 4年	教科 総合的な学習の時間	単元名 ごみ減量プロジェクト
学習テーマ 日野市のごみ対策		使用教材資料 なし
<p>具体的な取り組み内容</p> <p>4年生では社会科で、ごみについて学習する。その学習過程において、日野市クリーンセンターと浅川清流環境組合を見学し、日野市のごみ排出量が日本で一番少ないことを理解する。しかし、実際に自分たちの住む地域において、ごみを減らすためにどのような取り組みや工夫がなされているかを知る機会が少ない。そのため、本単元において日野市のごみ削減に向けた取組を理解し、また自分たちが行えるごみを減らす取組を考え、身近な地域や学校において「ごみ減量プロジェクト」を実施し、地域を良くする取組に意欲的に参加できるようにした。</p> <p>考察</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日野市のごみを減らす取組が、通常の3Rだけでなくリフューズ、リターンを合わせた5Rであり、ごみ減量のために、地域住民が意識していることを理解できた。 ・身近な場所で簡単な取り組みでも、自分の地域を良くする活動に参加できることを理解し、「このまま活動を続けたい」と振り返る児童もいた。 		

所属（日野第四小学校）授業者（廣岡 憧真）（C）グループ

学年	4年	教科	総合的な学習の時間	単元名	ひのっ子ゴミプロジェクト
学習テーマ			郷土愛		
使用教材資料			なし		
<p>具体的な取り組み内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合的な学習の時間でゴミについての学習を行った。事前学習として、ゴミについて調べ学習を行った。その後浅川清流組合と日野クリーンセンターを見学し、実際に見たり、聞いたりしたことをまとめ、成果物を作成する活動を行った。 <p>考察</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際に見たり、聞いたり体験的な学習を行うことで、より主体的に学習に取り組むことができるのではないか。 ・日野市にある浅川清流組合や日野クリーンセンターに行くことで、地域への愛着が育まれるのではないか。 					

所属（潤徳小学校）授業者（西川 愛）（C）グループ

学年	3年	教科	総合的な学習の時間	単元名	日野市の野菜博士になろう
学習テーマ			使用教材資料		
<p>具体的な取り組み内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日野産の野菜について調べ、実際にJAみなみのさんや、日野市の農家を見学した。 ・JAみなみのへの見学を通して日野産の野菜がたくさんあることに気付いた。 ・学校栄養士の丸野さんから話を聞き、日野市の野菜が給食に使われていることを調べた。 ・わかったことを新聞にまとめ、発表をした。 <p>考察</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日野産の野菜がたくさんあることに気づき、毎日の給食に使われていることで残さず食べようという意欲も高まった。 ・地元の野菜は新鮮で、栄養が豊富なだけでなく環境にも優しいことが分かった。 ・地産地消を大切にすることで、食べ物の輸送による環境の負担を減らすことができるとわかった。 ・毎日の給食にも使われる野菜が豊富なことに気づき、これからも日野産の野菜をたくさん食べて、地元の農家の方々に応援したいという気持ちをもった。 					

所属（日野第八小学校）授業者（船引 颯太）（C）グループ

学年	3年	教科	総合的な学習の時間	単元名	広げよう！ぼくたち私たちの世界
学習テーマ	地域との関わり	使用教材資料	なし		
<p>具体的な取り組み内容</p> <p>地域の中からやりたいことを決め課題を設定し、課題別グループごとに地域に出て活動を行う。毎回の活動では、活動計画を立て活動し、振り返りをして新たな課題を設定した。活動は、全部で3回行い、地域の人と関わりながら社会に参画し、地域の良さに気付けるようにした。3学期には、お世話になった地域の方を招待して「成果と感謝を伝える会」を行う。</p> <p>考察</p> <p>学習を通して、子供たちは地域の人と関わるという経験を積むことができた。毎回の振り返りでも「地域の人のため」、「お店のため」など、地域の人々の目線にたって考えることができおり、地域に対する愛着が高まっていると考えられる。現代の子供たちは地域の人々と関わる機会が減少しているため、このような経験が地域の人々とのつながりを深めるきっかけとなり、郷土愛の育成につながると考えられる。</p>					

所属（七生緑小学校）授業者（荒井 椋平）（Cグループ）

学年	3年	教科	国語	単元名	わたしの町のよいところ
学習テーマ	郷土愛	使用教材資料	なし		
<p>具体的な取り組み内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 七生緑小学校や、学区域の良い所を挙げる。 2 挙げた中から、紹介したいものを決める。 3 紹介するための原稿を考える。 4 紹介したいものを学級で伝え合う。 <p>（給食や行事など、多くの児童が同じ内容を選んだテーマに関しては、夢が丘小学校との交流会でも紹介する。）</p> <p>考察</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分が通っている学校やその地域に目を向けることで、地域への関心を高めることができた。 ・夢が丘小学校との交流会を通してお互いに地域のよさを伝え合うことで、多様な視点で考える力を高めることにもつながった。 ・紹介するものを決めた理由については、他者の視点と絡めて客観的に考えることが難しい児童がいた。 					

所属（第四幼稚園）授業者（井上 晴香）（C）グループ

学年	4・5歳児	教科	単元名
学習テーマ 高幡不動尊		使用教材資料 日野の昔話特集号（１）（２） 歩こう調べようふるさと七生	
<p>具体的な取り組み内容</p> <p>①日本の昔話に親しみをもたせた後、日野市にも昔話があることを伝え、『鳴り龍』の昔話を読み聞かせた。</p> <p>②鳴り龍は高幡不動尊に実在することを知らせ、高幡不動尊がどのようなところであるか、また高幡不動尊に祀られている不動明王について、スライドを作成して知らせた。</p> <p>③高幡不動尊に関連する『はたかけの松』『お鼻井戸』の昔話を読み聞かせた。</p> <p>④高幡不動尊の見学後、子どもたちが興味をもった不動明王の絵を描いたり、持ち物を作ったりして表現活動を遊びの中で楽しんだ。</p> <p>⑤園で行った郷土教育の活動をスライドにまとめ、保護者に伝える場を設けた。</p> <p>考察</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前に子どもたちに高幡不動尊について知らせ、その後見学に行ったことで、より興味をもって見たり話を聞いたりする姿につながった。 ・保護者に園の取組や子どもたちの様子を伝える機会を設け、一緒に地域に興味をもってもらったことが、子どもたちの親しみや関心を高めたとと思われる。 ・子どもたちが自分たちの住む地域に親しみがもてるように、日々話題にしていきながら意識づけしていくことや、教師自身も地域のことを深く知ることが大切であると感じた。 			

所属（日野第七小学校）授業者（山浦 真義）（D）グループ

学年4年	教科 道徳	単元名 郷土を思う心
学習テーマ 郷土愛		使用教材資料 「ふるさとの歌 巽聖歌」
<p>具体的な取り組み内容</p> <p>「ふるさとの歌」の資料は、日野市に縁が深い巽聖歌の生い立ち・作った詩について触れた資料です。</p> <p>児童は巽聖歌のつくった「母はとっとと」「お山のひろっぱ」「水口」などの詩を読み、そこに込められた巽聖歌の故郷を思う気持ちを想像しました。また、自分が巽聖歌と同じように故郷の風景を詩にするとしたら、どんな風景を詩にしたいか、と投げかけ、児童が自分の身近な「郷土」について思いを馳せ、それを大切にしようとする土壌を耕すことができました。</p> <p>考察</p> <p>データベースから「4年」「道徳」の検索ワードで抽出した資料を活用して授業を組み立てました。元は旭が丘小学校の資料なので、細部を日野七小地域に合わせて変えましたが、大本があることでイメージを持って授業の組み立てができました。</p>		

所属（仲田小学校）授業者（柿崎 麻理子）（D）グループ

学年 4年	教科 総合的な学習の時間	単元名 多摩川とともに生きる
学習テーマ 多摩川を探索し、各自の探究課題を設定する。		使用教材資料 2007(3)4 年総合「多摩川を渡ろう」（指導事例集より）
<p>具体的な取り組み内容</p> <p>◎指導事例集アーカイブを検索して、指導案や資料を活用した。（検索キーワード：「多摩川」）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多摩川を探索し、各自の課題を設定する。 ・パンフレット、インターネット、過去の文献、インタビュー等により探究課題を解決するための情報を収集する。 ・スライドやポスター、パンフレット等を作成し、分かったことをまとめる。 ・学級や学年で発表会を実施し、多摩川と自分との関わりについての考えを深める。 <p>考察</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導事例集で単元計画を参考に、自校の実態に合った形となるよう修正していくことで、教材研究の質及び効率を向上させることができた。 ・事例集の資料を学習に取り入れることで、児童に適切な資料を提示することができた。 		

所属（夢が丘小学校）授業者（鈴木 規愛）（D）グループ

学年 4年	教科：特別の教科道徳	単元名：自然愛護・動物愛護
学習テーマ 環境保全	使用教材資料 豊かな自然「カワセミ」	
<p>具体的な取り組み内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事例集から自然愛・動物愛護についての学習と地域を結び付けるという指導案のアイデアを参考にし、身近な地域の程久保川にいるカワセミを取り上げた。 ・教材文「カワセミ」を読み、カワセミが市の鳥であること、カワセミが戦後いなくなってしまったこと、カワセミを守ろうとした人がいたことを知る。 ・主人公「ぼく」の心情を考え、自然を大切にすることの大切さを知る。 ・自然を守るために自分ができることは何かについて、オクリンクプラスを用いて班ごとに意見の共有を行った。 <p>考察</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身近な川（程久保川）にもいるカワセミが市の鳥で、その鳥が住むためには自然を守っていくことが大切であることを知ることができた。 ・カワセミを守るために自然が大切であると知ったことから、自然を守るために自分たちは何ができるのかについて、この学習を通して考えることができたのではないか。 		

所属（東光寺小学校）授業者（小澤 正史）（D）グループ

学年 4年	教科 社会科	単元名 東京都の伝統や文化
学習テーマ 受け継がれる祭り	使用教材資料 特になし	
<p>具体的な取り組み内容</p> <p>武蔵府中くらやみ祭りが、千年以上受け継がれていることを主軸に、地域の日野宮神社の祭りについて話し合い学習課題を2本立てにした。</p> <p>①くらやみ祭りは千年以上誰がどのような想いで何をしながら今まで受け継がれてきたのか。 ②地域の学習課題：日野宮神社の祭りを千年先の未来に残すにはどうすればよいか考えよう。</p> <p>地域の学習課題への答</p> <p>だれ…自分たち（児童）が祭りに参加する。自分たちも楽しんで良さを伝える。 ・お囃子をやってみる、祭りの準備に関わってみる。</p> <p>想い…大人になっても祭りの時に地元に帰ってこられるような場所でいてほしい。 ・人がたくさん来てお金が入れば神社の祭りを応援できる。（ゴミ袋を増やすなど） ・祭りを受け継いで未来の東光寺、四谷の人たちも日野宮神社の祭りを楽しんでほしい。</p> <p>どう受け継ぐか…友達を祭りに誘う。他地域の学校にも伝えて協力し合う（四谷地域 仲田小） ・祭りのポスターを作り、児童館や地域、学校の掲示板に貼る。 子供たちの絵を貼った行燈を作る。 ・募金をし、ごみ箱を増やす。ごみ拾いのスタンプカードを作る。 （自分たちにできる安全・安心） ・児童が主体となってできるじゃんけん大会などのイベントを企画し、祭りに参加する。</p> <p>考察</p> <p>・「くらやみ祭りの運営を地域の祭りに生かし取り入れるには」という発問を作ることができ、児童が、自分ごととして地域について考える機会を設定できた。</p> <p>・学習のまとめを、お囃子の会の方と3年時にお世話になった日野宮神社の氏子会の方へ届けようとする流れができた。</p> <p>・課題としては、社会科での時数確保がある。今回はアイデアを地域に届けるところまで実践できた。</p> <p>・子供たちが主体的に課題を解決しようとする姿から、中学年らしい前向きな気持ちを引き出すことができたのではないかと考え、地域と学習過程を繋げる大切さを改めて学んだ。</p>		

～ 編集後記 ～

【齋藤 直大：郷土教育推進研究委員会担当指導主事】

郷土教育推進研究委員会は、第4次日野市学校教育基本構想に基づき「地域を舞台として、ホンモノとの関わり」を大切に、本構想の具現化を目指し研究を進めてきました。これまでの研究成果により、子供たちが郷土という最も身近な教材で各教科等の見方・考え方を働かせ、探究的に学ぶとともに、子供たちに日野を愛する心を育む教育活動が、日常的に実践されるようになりました。

今回報告された皆様の実践や指導事例が、各学校の実態に合わせて活用され、更に実践事例が積み重なり、日野市の郷土教育の充実がより一層図られることを期待しております。

本委員会へのご指導・ご助言をくださいました顧問の先生方、日野市の郷土教育の推進、充実、発展にご尽力くださいました委員の皆様に感謝を申し上げます。

【秋田 克己：郷土教育推進研究委員会副委員長 日野第三小学校副校長】

「郷土の魅力・特徴」となるものは、人々に当たり前のように受け止められるため、その価値に気付にくいという性質があります。身近な歴史・文化・自然等を地域の宝として教材化し、学びにつなげることが郷土教育の要点であると考えています。この視点をもつためには、郷土を俯瞰的に眺めることが大切です。今年度の郷土教育推進研究委員の皆様は実践を通して郷土日野を見つめ、深く掘り下げてくれました。取組を振り返ると「指導者自らが教材を開発し、研究する」「子供たちに現場を歩かせて気付かせる」「過去の実践事例を参照して新たな授業を構成する」「どの地域にもある共通項をテーマにして複数校で実践する」という手法を取り入れました。過去に取り上げた題材であっても、時期や地域の違い、子供たちの実態に合わせて指導の方法を変えて郷土の魅力・特徴への気付きにつなげていたところは興味深いです。

授業の実践にあたり、ふるさと文化財課学芸員、市政図書館司書、中央公民館職員の皆様にお力添えをいただいたことに感謝申し上げます。

今年度の実践については、当事例集を電子資料としてアーカイブ化します。これから授業を実施される先生方に、ぜひ活用していただきたいと存じます。

7月23日（火）夏季研修会
午前 コニカミノルタ等フィールドワーク

7月23日（火）夏季研修会
午後 小杉顧問による講義



10月22日（火）

11月19日（火）



日野第五小
研究授業



滝合小
研究授業



日野第七小
研究授業



日野第八小
研究授業

郷土教育推進研究報告書

令和6年度（2024年度）

「郷土日野」指導事例

～第19集～

令和7年3月31日発行

日野市立教育センター
郷土教育推進研究委員会